

平成二十九年（二〇一七）三月二十五日発行  
『大倉山論集』 第六十三輯 抜刷  
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

栄力丸漂流記『東西異聞 地』複写版の翻刻（部分）と解題

茂住 實男

栄力丸漂流記『東西異聞 地』複写版の翻刻(部分)と解題

茂 住 實 男

東西異聞 地

東西異聞卷之三

東西異聞卷之三

月日が経ち少し英語  
が分かるようになる

辛亥の年の二月四日と思ふ日、此サンフランシスコへ着船すといへども、皇国の父母、妻子の事のミこひしくて、帰国の事を今日や明日やと待ける程ニ、いつしか住馴スミナレしかバ、異国の言語も少くさとり初めたりき。船中にのミ居るもいふせさに、市中或ハ山野へ行て鬱ツツをはらしつゝ、常に

帰朝の程をぞ待居たる。

蒸気鋸のこと

或日陸へ上て蒸気車の機にて人力を用ず材木を挽割を見しニ、蒸気船のごとく湯気の仕かけにて、  
図のごとき円き鋸の廻る処へ木を当つれハ大木にても忽挽割るなり。わづかに五六人にて木を運び  
或ハ繩墨或ハ木を当がひ仕居たり。其手際成る事言語ニ述がたし。猶、其状ハ図を見て知るへし。  
さて船中の夷人吾等を將て港口へ度々引網に行たり。後にハ習ひて吾輩のミ常も行たり。此塘網  
引き網で魚を捕る

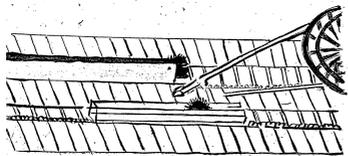
と云ハ廻り三丁許にて、手操の如く網を引廻し陸へ上り轆轤にあらで手にて引よせ魚を取なり。其  
魚ハ鱈魚に似て、鱗細く油気多き魚也。其蟹、鯊魚、鍋蓋魚、海鰻、比目魚等也。又多く得し時ハ  
枝船二一舟許もありき。少なき時も二三斗許ハありき。又いと多得たりし時ハ、二三度も市中へ売  
に行し事有しが、グワンダアラ銭二十七八文にうりたり。此代日本銀ニ直し大凡七両許成へし。

異国の習わし

船中へ帰りて始終世話成し呉るタメスチャアエに渡セバ、却又吾等にグワンダアラ二三文極づ、

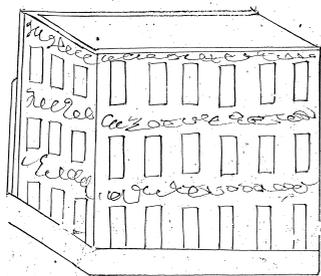


蒸気鋸



蒸気鋸

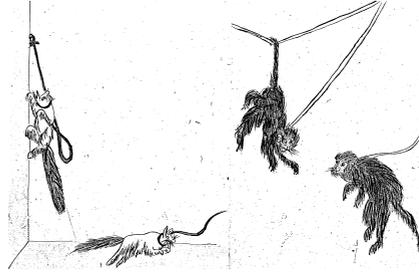
家屋



家屋

別呉たり。されど吾等ハ厚き世話ニ成ハとて、辞退して返しけれど、強て

サンフランシスコの人は魚類を好まない



(尾の長き猿など)

鳥撃ちに行く

る物四五斗許釣りえし事度々有き。

又北の入口の方へ鳥打に二三里許も行たる事も度々有き。鴨、兎、鷗、鵝の類を鉄炮にて打、又鷲を生捕り帰り船中にて牛肉杯喰せ飼置つれ共、間もなく死たりき。土人にも鳥肉を好みて獵を成ものあれど、皆慰にて産業に成ものハ見当らず。

鉄砲の腕はさほどではない

又洋外の人、砲術は上手の由二聞つれとも、然のミ上手とも思はれず。

尾の長い猿

又市中にて尾の長き猿をかゝ置たるをミシニ、其長き尾の先二爪ありて物を巻取て喰ひ杯するさま、尾を手のことく自由に遣ひ成也。

(参考)

参考

吾等ニ与へ何にても買べしと云て受ず。御患にて金銀なくとも不従横なき由云けれハ、タメスチャアエ云けるハ、よしや人の呉んといふものハもらひて後棄るとも、一度ハ取へき也とて、物捨る手勢して教へ呉たり。こハ彼国にてハ人より物与れば、入らずして仮令捨とも一度ハ取る習俗の容子成故、此より吾杯も意得て何ニても与ふる物ハもらひ受る事にそ仕たりける。

扱、此辺は魚類を好ざるゆへ魚師も稀にて、魚多く在、其得し魚を干物になし、或ハ塩杯して喰ひたりき。又釣二行し事も数度ありき。此ハ港口にハあらて、図にあらはせる小島辺にて釣するに、多く釣得たる時ハ五六人にて鯿に似て赤き魚五六寸より一尺許成

『西洋雜記』に見る猿

西洋雜記に南亞米里加州伯西兒「マラゲナン」等の地に一種の猿を産す。名付て「カヨウ」と云。全（頭注による）身毛甚多く、灰白色の長き毛有、眼黒く耳禿カウロに、尾ハ甚長く、其面貌恰アツか

も老人に肖ニたりと云。

熊

又熊ハ多き由にて、市中ニ飼置たるをも度々見たるニ最大成るハ牛の如きも有。

ロバ

又名をアイスト云獸有、荷ヲ付或ハ人を乗せ杯して、馬のことし。されど力よわし。耳長く尾も

爪ツメも牛の如きもの也。

リスのような動物

又市中ニ栗鼠リスのごとく尾の太き獸ヲ飼カヒおけるを見し事有。其形誠に美し、されど名ハ知らず。

火事

又市中にて火事を二度見たるに 皇朝のごとくつとめて消ケさずして、皆々見物して居たりき。されど其時ハ太火にも成らずして止ぬ。

家屋のこと

市中の居室ハ、図にあらハセるごとく箱の形にして屋根棟なく、二層楼、三層楼、四階等もありて、外ハ白土のごとく塗ヌりたり。家造ハ材木を用ひず石を積上て建るとあり。土を角に練塊て、焼て、積上建るもありて、入口ハ間中位にて、店ハ一間半許も有、又二間許成るも有。

窓はガラス、戸・障子は観音開き

家の中は土足

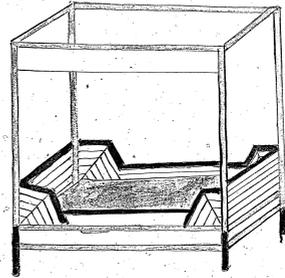
窓マドは硝子障子にて外ニ戸あり。統て戸、障子とも皆観音開にして、内ハ板張或ハ鋪石シキイシにて、大家ハ多く毛氈セシを其上に鋪けるが、土のつきたる沓クツをはきたるま、にて、其毛氈の上を行歩く成り。されど雨天の折ハ、入口に櫻欄シュロの毛にて織たるもの有、夫にて泥沓ドロクツを拭ネゴひて、其沓のま、にて内を行歩く也。

間取りなど

内の仕切ハ壁カキにて襖フスマ容の物なく、通ひ口ハ間中ニして開戸にて二間、三間、四間と仕切有と、広さ同て床、押入等なく、諸道具ハ台の上に並へかざれり。閨房エドコロハ常に其間定まりて、臥單ハ其儘そ

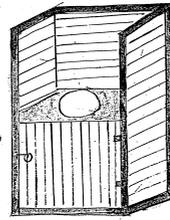
調理場は別棟

厨房



厨房

厠



厠

ここに畳ミ置也。煮焼料理の間ハ本家に離れて

小き所を建たり。掛物はなく額を多く懸て、

浴室は無く、細長い  
たらい

厠のこと

竈<sup>カマド</sup>ハ何れの家にも銅にして、足四つあり、両傍に牛肉或ハ小麦の粉にて製したるもの抔を蒸焼に成所ありて、一所を焼ハ湯も獣肉も其他の物も同じく煮ゆる仕かけ也。又其竈の後或ハ脇より烟を外へ漏ざる容に円樋<sup>マド</sup>の如きものにて壁<sup>カス</sup>或ハ屋根其処ニ從ひて弁利よき処より外へ漏をり、浴室ハなくて細長き盥<sup>カラ</sup>に湯を入つかふなり。市中ニハ銭湯あれど、水少き土地なる上ニ一人づ、にて湯ヲかふるゆへ、一度の価一貫六百文の銀錢一文成よし、土人云り。

厠<sup>カハヤ</sup>ハ家の片角に仕切て、其内へ図のとき箱を置いて用をなすなり。糞<sup>フ</sup>を取すつるハ人の見ざるやうに夜の中に海へ流棄る也。此業を成ものハよき価を得るとぞ。異人ハ便をなしても手ハ洗ハざるなり。

追考

〈追考〉

『西洋雜記』に見る

西洋雜記に、歐羅巴洲ハ人家皆石を以て造建す。故に火災絶て稀也。其木のミをもつて造る

ヨーロッパの家屋、廁

ものハ下賤の家なり。又彼方廁、糞を掃除するにハかならず夜を以てして、白昼天日の光有る処にてハ決して糞を掃ふ事なし。ゆへに和蘭語、拐糞人を謂て「ナクトウエルケル」という也。

「ナクト」は夜也。「ウエルケル」ハ業を成す者といふニテ也と記セリ。

アメリカの廁（万次郎）

又万次郎いふ。廁ハ穴を明て其中へ尻を落し入用調ふる也。其内にて出物杯を見る也。又溜りの桶箱なく土を堀、窪めたるま、也。小便許小き壺に溜て雪隠へ移す。又大勢の入込場にてハ、桶堀込て溜れハ取捨るなりといへり。

サンホセの廁（永住丸漂民弥市）

又弥市いふ。サンボセにハ雪隠なく、家の背に少しはなれて深さ三尺許り、幅三尺許、長さ二十間余も堀て、両方には木の生垣をし、其中へ行、事すミて尻ヲ紙にて拭ひ、糞を砂にて埋めり。此辺ハ都て砂地にて、沓をはきしま、両足にて砂をかけ埋め置なり。猫も同じ仕形にて、すべて手は洗はずと云り。

扱、前二も謂しごとく獸食より成し異人は、自ら心も意も又なす業も、禽獸に近き事を、此廁の条にても知るへし。

アメリカ人の身体的特徴

背高く、鼻筋通り…  
面長で、毛深い

又異人の身体ハ、背高く鼻筋ハ通りて小鼻といふ物なし。眉の傍り高して眼低くミゆ。目尻は高からずして直眼なり。白玉ハ日本人同容、黒玉ハ浅黄色又赤茶の如くなるも有て、すべてうるミたる容にミゆ。瞳ハ日本人と同じく耳口も同じ。面貌ハ各異成ど多くハ面長なり。齒ハ茶色にして稍長くミゆ。髭ハ多くすへて惣身の毛多し。手足ハ我と異ならず。されど足の甲ハ常に沓をはく故か、先細くして少し甲高く、都て惣身の毛色赤し。

陰莖ハ十人許も見たりしに、皆長くしていつれも皆包皮なりき。

〈参考〉

『泰西三才正蒙』

總身の力量は日本人に劣る

総て惣身肥たるもの少く、日本人のごとく手に力拳キケンなくして優形ユウカクなり。手足の先ニハ力有れ共、惣身の力量日本人ニハ劣れり。

〈追考〉

追考

永住丸漂民亥之助のアメリカ人観

亥之助云。「マサツラン」の人ハ長大といへ共、筋力弱ヨクくして漂人等ニハ甚た劣れり。日本人ニ比せば五六寸もたかかるへし。然共脱肉成ヤセズ。さて此地の米俵ハ目方僅に十貫目許あり。吾等の軽く取扱ふを見て甚た驚きたり。土人の扱ふハ他人助力をなして肩に揚運ツヨキふものを剛者とす。人情、氣質も亦同しく柔和なりと云へり。

皇国は人や物すべてにおいて異国に勝る

さて、かく異国人の 皇国人に力量の劣りたる事ハ、神典ニ其理明かに有事成共、清太郎の前ニも云ごとく、異人ハ獸肉を平食とし 皇国の人は美肥の米を平食と成すゆへに、かく優劣ユウレツハあるべき理也。人のミニ非ず、都て 皇国の異国のものニ比すれハ甚強し。第一土ハ肥てねばし。又金鉄、材木、紙、五穀は元より、一切地より生ずるもの、異国よりハ甚た強くして堅き也。此ハ神の所為ミシワザにて深き理の有事也。

皇国に良薬無しと思ふのは異国に心奪われた人

されと薬種ハ 皇国より唐国ニハ勝りて広東人參、附子、大黃、麻黃、又和蘭よりハサフラン或ハセメンシーナ、又カナノフル杯、種々の良薬を産すれど、皇国ニハなしと思ふ人あらん。此ハ異国の書ニ心奪はれたる人の云事也。薬といふものハ偏性ヘンセイのものにて、偏寒、偏暑の土地にハ偏性の薬草多く有もの也。又和蘭より渡る薬ハ多く製薬なり。

皇国の病と異国の病は原因が異なる

さて偏地ニハ偏性の薬種ありといへ共、前に云けるごとく、皇国にてハ無用のもの也といふ理をあら〜いはん。先病の起る元ハ古事記ニ、時置師ノ神、次ニ和豆良比能宇斯能神、次飽昨之宇斯の神とありて、第一飲食、次に意より、次ニ不正の気より起りて、海内ハ此三門より成もの也。故ニ異国人の蒸餅、魚鳥獸の肉より起る病と、皇国人の米食より起る病とハおのずからいたく異なり、又偏寒偏暑砂地の不正の気より起る病と、皇国の中正平和の気より起る病とハ、又自ら異也。又異人の氣質と 皇国人の氣質とハ自ら異成ハ、病も又自ら異成へき理成をや。

皇国の病には皇国の薬が効く

されバ薬も異ならざれハ、病ハ治せざるものなり。故ニ 皇国人ハ皇国の美しく肥たる土地の薬ならでハ治しがたきものなり。扱、力量を評せんとて斯長々しく記たるを笑ふ人も有へけれど、広信か例の好事成ハ、是猶九牛の一毛ヲ記也。

髪は前後左右を切り揃え、色白で、痘痕無し

髪ハ半より後を一寸許に切揃へ、前ハ左右に分て耳の辺にて切揃へたり。物身の色ハ日本人より白くして、痘痕有もの一人も見当らず。

〈参考〉

参考

アメリカの種痘（万次郎）

万次郎云。かの国にても種痘ハ専ら流行す。其法 皇国へ流行たるもさして異成事なし。彼

アメリカ女性は背高く優形

女ハ大体男同やう成共 皇国の女よりハ背高くして肥たるものハ稀也。多くハ優形也。

髪は総髪で：

髪ハ惣髪ニて、前ハ左右にわけ耳の辺へ解卸し、夫より上へ上ケ、後の髪と一ツニ集め根をく、りて、笄容の物にて天窓なりニまわりたる鬢留を根括りの前に当、髪先まで円坐のこくとくニ、又



彌利堅人  
アメリカ人



彌利堅人  
メアリカ

委しき事ハ見当す。

耳ニハ金銀杯にて造りたる輪を二つ許さくるなり。

化粧ハせず、齒も染ず、眉も落さず。

耳飾り  
化粧無し、お齒黒無し  
アメリカ女性と唐国  
女性

又土人の語を聞ニ、唐国にて度々遊女を翫ひたるに、唐人の玉門ハ皆小なりといへり。然れハ此地の女は唐国のよりも玉門大成らんとおしはかられていとおかし。

又大便をなすニ、前の図のときものニ腰をかけて成也。又紙ハ字の有紙ニても忌ざる也。されと唐人ハ文字を学びて字有紙にてハ拭はざるなり。又男の小便を成すハ日本同やうにて立なからずれと、女ハ 皇国の小女のごとく蹲踞て成す也。

肌の露出を恥じる  
すへて異人ハ肌をあらはす事を恥る。暑中といへとも肌ぬかず。沐浴ハ二月ニ一度許して居、恒ハ顔手足を洗ふのミにて、其上獸肉を食ふ故、身体の臭き事此方の屠家ニも譬へがたし。

髮先を挟ミ、又  
曲りて天窓にそ  
ひたる荒櫛を前  
ニさし其余搔頭  
やうの物なし、  
其外少女、中女  
杯の結やうは聊  
異なる容なれ共、

アメリカ人は純朴、正直、世話好き、夫婦は仲睦まじい

酒が入ると喧嘩口論が多い

〈追考〉

つて亜米里加諸州の人情ハ淳朴にして、多く詐りはいはず。人になさけ有てよく世話をなし、又夫婦ハ中睦しく、父子兄弟の道正しく、又人と喧嘩口論の事稀成とも、酒に酔時ハ 皇国人より喧嘩口論多き様也。

追考

酒は下等の者が飲む (万次郎)

万次郎云。酒ハイエテレ国より渡る、されと上党の人ハ飲す、下党のものはかり飲むなりと云へり。されはかく酒乱多き故、上党のものは飲ざると見へたり。斯酒に乱れ安きハ酒の厚味成るにあらず、精力薄き故ならんか。酒の事ハ下条ニ猶委敷く記ス。

君臣の道

君臣の道定かにハしらねども、先船中の容子を見るニ、下々ハ能く大将を崇むれ共、大将ハ高慢ならざる故、君臣の道ハ 皇国のごとくきハやかに見へず。

〈追考〉

追考

君臣の道、皇国は正しく、異国は正しくあらず

皇国の天皇ハ 天照大神より今ニ皇統連綿として 皇国の天皇におはしますのミにあらず、万世界の総帝におはします也。故に下が下迄君臣の道正しく、異国ハこれに反して古より今ニ

至統定まらずして其国々のミのかりの小王成故、

下が下迄君臣の道正しからず。委き事ハ下ニ記ス。

又支配人より夫々に役を命ぜされハ仮令眼前ニすべき事をも見捨て過す国風俗也。人に物を贈りてうけざる時ハ大ニ怒る。仮令入らぬ物にても与へたる物ハ必受る国の習俗也。人に恥しめられても 皇国

アメリカ女



アメリカ 米利堅女

アメリカの習俗

勇氣は日本人に劣る  
人のことく腹立しくハ思はぬ様也。都て上下共平日の人情を見るに、都て勇氣ハ日本人ニ劣りてミ

ゆ。

〈追考〉

追考

皇国人は猛勇

皇国人の猛勇成る事ハ異国人もよくしりたる事、諸書ニ見えたり。其一二を挙ていはん。西洋人の記したる鎖国論に日本人に一箇の氣象あり。我是を号て胆氣なりとやいはん、英勇なりとやいわん。讐敵の為に打敗られ打負たるの時ハ、怨を得て報ふる事能さるの時ニ至りて、精神泰然として己か腹を切割きて自殺する事を難しとせず。其生命を軽賤する事かくのごとし。其内乱の事跡ニ於て実ニ駭くへき事充滿セリ。されハ其時其人各々勇氣第一たらん事を希ひし事明白なり。

其史記の載る処によりて義経、清盛、楠、阿部の仲麻呂杯いへる人、及び其余名譽の人の大武功ありし話を聞ものハ何れも日本自讚する事、かの羅媽人タミユツ子イスラホヲ及びホラツチイマタリテスに於るかごとく、成へき事を信知すべし。こゝに從來我か談話せし所の当下の一証とするニ足るへきハ、かの薩摩の国の産なる七人の若士か、賤き「異国□□」於て、別て和蘭人の前に於て、希有の働を成せしにてぞ有ける。其事左ニしるすがごとし。

薩摩若侍七人の台湾  
での武勇

寛永七年のこと成りき。其頃迄ハ日本も未だ四方の通路自在にて、国人何れの国へも随意に通商したる折成しがハ、我一箇の小船交易の爲ニ台湾に行けり。後にこそ台湾の地、支那人に取れて今に至る迄支那の所有たれ。其頃までハ猶和蘭人の地にして、当時ハ和蘭産成るピーートルモイツ台湾の刺吏たりしか、遺恨ありての事にや有けん。彼小船にて渡り來たる日本人をバ

痛く勵しく取扱ひけれハ、日本人謂へらく、我身こそハあれ都てハ我君の恥辱にこそとて、国に歸りて其君に大ニ歎き訴へけるハ、都て忌々しき恥辱を殊ニハナンバニイに受て、然も又報ふへき様なかりけると訴へたり。

こゝに彼の君いみしく怒りしけるか、其訴へたる人共曰、我君よ、君もし我等に君の讐を報ふる事をゆるし賜はずハ、我等長く君の侍衛たる事能ハす。我等願くハ彼凶賊か首をとり来らんか、又生ながら君の前ニ給て參らハ君それ随意ニ適當の爵を加へ給へ。我等七人あらハ事足りぬへし。海路の危険成る、城郭の堅固なる、侍衛の衆多成彼が為に防禦成すとも、如何でか我憤悱の銳利成るに堪ん。彼等ハ南蛮人なり、我等ハ日本人なり、神孫也と云て、ついニ請求めて許容を得てけり。是実に大胆の拳なりといへとも、謹審にして勇氣と機変とを兼て、遂ニ此拳を為得たり。

さて折しも海路順にして恙なく台湾に至り、刺史と相見て即一斉に刃を抜て威を示し、彼を即時ニ擒にして白昼におのが船へ捕へ来り。彼か衛士、家族目前にあれ共、威僅に敵対するものなかりしと有。豈美談ならずや。

此他 皇国の武勇なる事とも多くケンフル拳つれと、さのミ記さす。

此にさつま人といへるハ、崎陽の浜田兄弟及び其党と七人なりとそ。又亥之助云、メキシコのカンホと云もの、宅へ、英吉利須の公吏二人来たりて酒杯を出したるに、其時亥之助給仕人成りしか、我客体の異成るカンホに日本人なる事を聞て、日本人はともすれば人を切ると忌嫌ひたり。亭主、いな日本人成と武士にあらざれハ人を切らす、此ものハ商人の類なりといひ

イギリス人、日本人の武勇を恐れる（亥之助）

アメリカ人の闘争は拳

けれハ、安心して酒を飲たりといへり。又唐国にて伊吉利須人、亥之助ニ云けるにハ、吾日本行たく思ふ、されと日本へ行バ、定て日本人吾を切ならんと、戯れ云たりとなん云へり。さて此三条ハ異人の言ひし事にて、日本人の武勇成る事ハ、万世界の異人ハよく知りたる事也。此故ニ 皇国人ハ猶よく武勇を励ミ武を異人共ニ示すべし。ゆめく太平なりとて武をなゆるびぞ。

又しばく闘争するを見しに、物を持って打合ふ事なく、拳を握て突合ふのミ。されど傍なる人見て居て多くハさ、ゆる事なかりき。一方負けぬれハ其俵やミて、雌雄を決するにいたらず。誠ニ鶏の蹴合ふが如きのミ。されと公吏の眼にかゝる時ハ制する也。

〈追考〉

追考

異人は刀剣より鉄砲

異人ハ鉄砲を主として刀剣を傍にすれハ、かゝる喧嘩の時も突合ふのミ也。又死刑も炮刑或ハ絞刑にて、刀を以てする刑なし。此は元より耶蘇教成る故、刀剣にて破切する事忌なり。

アメリカ人の衣服

彼土の衣服ハ、襯ハ莫大小の筒袖にて、裾より被り頭を出し、襟なくして、胸ハ牡丹にて留め、其上ニハ長ケハ襯同やうにて筒袖也。但し、袖口有、是を牡丹にて留、襟ハ首の廻りばかり有、胸

シヤツ

ハ牡丹にて留む。これハ絹のごとき木めんにて、名はシヨイチと云。其上にハ袖のなきものにて、前ハ天鷲絨、哆羅呢或ハ縞子杯にて、後ハ蠟引にて多くハ鼠色、前ハ牡丹の数、十をばかりありて留る也。かく三重着たる上ニ又縞子容のものにて風領をす。又其上ニ少し長き筒袖の羽織のごとき物、表ハ哆羅呢、裏ハ絹帛色々有。袖口に牡丹十四五用ゆ。名ハコーツといふ。

コート

ズボン下 (drawers)

足ハ組なき股引容のものにて牡丹にて留む。名をツラーシ、と云。又上履は哆羅呢のを用。是も

ズボン (trousers)

アメリカ人の履き物

牡丹にて留む。名はドロツと云。

ストッキング

足袋ハ俣なくして多く莫大メリキス小なり。名はシトケシスといふ。沓ハ革カハにてつくり、俣なき足袋のごとし。紐ハ前にて穴六ツ許両方ニ有て、一筋の紐の両端をひけば縫合てしまる也。

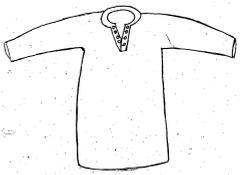
シューズ

ブーツ

其踵キヒスは革三枚也。名ハシユウスといふ。又上に履沓あり。下ハ同し事成れと膺スネ迄ある也。名ハブウツといふ。

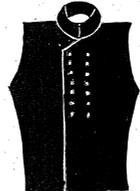
襦ジュ前ゼン面

法衣第一ノオカ  
キヨクニオカ  
キヨクニオカ  
細糸ハカキ  
略



ハダギハダギ 襦ジュ 前ゼン面

外ソト套ソウ前ゼン面



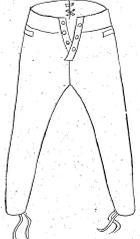
ウハギウハギ 外ソト套ソウ前ゼン面

外ソト履リ前ゼン面



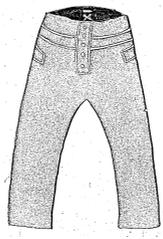
外ソト履リ前ゼン面

袴ハカマ下シタ履リ前ゼン面

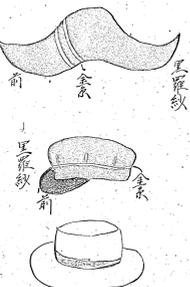


袴ハカマ下シタ履リ前ゼン面

袴ハカマ上ウエ履リ前ゼン面



袴ハカマ上ウエ履リ前ゼン面



帽  
\*一部省略

禪チンハ用ひす。

上官の肩に金糸の房  
上官の公吏ハ外覆の肩に金糸の房を飾り付、又腕に金糸にて、かくの如き物付たる公吏もあり。其外ソウシヨの印また股引にも印あれと下ニ謂ふべし。

〔参考〕

参考

ズボンに武人の印あり  
(亥之助)

亥之助云。上官のものハ左右の肩に金の針金の房杯の飴カザりを付て中官以下ハ右の肩一方に付て、下人ハ金を用ひず。又股引の縫目ニ哆羅呢ラシヤを縫込メて武士のしるしとす。国々にて色ニ違ひあり。此墨メキ是シ可コハ赤色、南亜米里加ハ黄色、伊吉里斯ハ鼠色、和蘭ハ白かと思へり。

アメリカ人女性の衣服など

女の服ハ、襦ハダキハ仕立形男と同容に絹にてしたる莫メリ大ヤス小なり。色ハ白或ハ桃色、其外套ウハキハ仕立形男と同容にて、胸の牡丹ハあらわれぬやうにす。縹ヒレ子、天鵞絨等を用ゆ。襟エリにハ哆羅呢ラシヤの容なるものにて、首輪のこことく鱗ヒレあるものを少し出せり。

さて腰ハ珠数袋シユウサウロの口のごとく紐をしめて、大小の用を成す時ハ左右へ口を開ハ開くる也。腰に巻ものあり。太く腰帯容のものにて、羽二重を蠟ロウ引にして烟管筒の如く空にして底あり。一方より息を吹込ハ、其筒に息イキこもりてふとく成る時、捻ネジにて留め、夫を腰ニまき、前にて牡丹留とす。

腰太く見えるを美とする

さて此物にて腰太くミゆるを美とする也。其上にハ袴のごとくニして俣マタなく細く襷ヒダを多く取たるものを腰帯の上ニ服す。つとめて腰の太き事をよしとす。

沓は男と同じく陰布イマイキハ用はず。下賤のものも廉まなるのミにて仕立形ハ同し。

冠ハ図のごとし。

食事と食べ物のこと  
食時ハ日に三度の外食ハず。平日の食物ハ前にいひしごとく、小麦の粉にて造りたる鶏蛋糕カステラやう

の物、又蒸餅<sup>パン</sup>、牛肉或ハ豆を煮れど、其外種々にて、吾国のごとく飯菜の分ちなく、何物にても各好ミたる物を食して、腹さへ滿れバよしとする国風也。米は外国より來れ共、好ミてハ食はず。牛肉ハ塩漬もあり。又牛肉に塩をふりかけ蒸焼にしても食し、又塩煮にしても食ふ。芋<sup>イモ</sup>と牛と塩煮にし、或ハ油にて揚扱し、其外種々の料理あり。魚ハ骨を去り、塩と豕の油とを加へて煮、或ハ小麦粉ニ塩を入れ、是を付てやき杯もする。其外調味品々あれど、吾国と異<sup>ト</sup>して生魚の鱈<sup>ナマス</sup>ハ毒なりとて食はず。

（参考）

参考

メキシコでも生魚の膾<sup>ハシ</sup>は毒（亥之助）

亥之助いふ。彼土にてハ魚は小骨迄も能拔さりて喰ふ。或日、生魚の鱈<sup>ナマス</sup>を食し居たれハ、カ

野菜、芋、麦など

ンボといふ人、生魚ハ毒なり、食ふまじと制したりき。菜類ハ蕪、大根、芋、蓮根、生姜、苜<sup>トウモロコシ</sup>、蕃椒、分葱、芥子、葱、穀類ハ小麦、蕎麦等其他種々あれど、ことごとくハ記さす。

酒

食事は匙、熊手、小刀で

酒ハ諸州より來りて種々あり。味ハ焼酎に美淋<sup>メリシ</sup>を和したるが如し。皆冷飲にて、温めたるハ飲す。

貨幣のこと

統<sup>ツシ</sup>て箸<sup>ハシ</sup>ハ用ひず。匙<sup>サシ</sup>、熊手<sup>クマデ</sup>、小刀、此三品にて食する也。

又金、銀、幣<sup>ヘイ</sup>、色々有。金銭六角にて指渡一寸、重さ大凡十二匁許にて、匁、吾国の十二兩二歩ばかりニ当るべし。名をヘフチダアラと云。又金銭形円く重さ六匁ばかり、名をテンテフアイダラと云。又金銭形円くおもさ二匁八分斗り、名をテンダアと云。又金銭形円くおもさ一匁四分許、名をフアイダラと云。又銀銭形円くおもさ七匁許、名をグワンターラといふ。又銀銭形円くおもさ三匁五分許、名をアヤフダラと云。又銀銭形円くおもさ一匁七分許、名をコワタといふ。又銀銭

形円くおもさ八分五厘許、名を知らず。又銅錢太（天カ）さ八分斗り、是を百合せて一貫六百文のクワンタアラの銀錢の価と成。又唐国にて十文ニ通用して名をテンセンと云銅錢あり。

紙錢ハ用ひず。

金に小玉ありて、掛目にて通用す。

右金銀の価ハ、彼人、唐国へ渡りて物買ひたる時始て知りたり。サンフランシシ、コーにてハ知らず。

ある日、一貫六百文のクワンターラにて密柑（蜜カ）を買しニツ呉たり。又同錢にて毛織（ジュサシ）の襦衫を買ふニ、一枚呉たり。此由を異人ニ問ひけれハ、蜜柑ハ五六十里も遠方より来る故、腐れ易くして貴し。毛おりも遠方より船来すといへ共、此ハ腐らぬゆへなりといへり。

（参考）

参考

『婆心秘稿』に見る  
アメリカの錢図

婆心秘稿（ハシヒヒカガ）

皇国の貨幣に換算

チルといふあり。此錢、一文銀錢十文ニ当る。金錢一文を 皇国の錢ニ直して、三十貫文と成る。又銀錢一文ハ三貫文ニ当る。又銀錢シルバタラといふ有。此錢、一文銅錢の百文ニあたる。銅錢の名をシエンツと云、此一文 皇國錢の三文ニあたる。又銀札をペバマ子と云。白き紙にて長さ五寸、幅三寸位也と云へり。又弥市の説并ニ図あれと略ス。

罪人と罰、獄

又獄有て、罪人は桎（アシガセ）をはめて土石などをもたせ、其他種々の力役を事とす。船中の罪人ハ両手を括りて釣（ハシゴ）さけ梯に登らせて久しく置も有。又船中ニも獄ありて、度々入牢したるを見たりき。

〈追考〉

『新国図志通解』に見るアメリカ

建国以来謀反を企てた者無し

マサチューセッツ州の犯罪例

追考

図志通解にいふ。国中法を犯すの大成本物ハ反叛人、人殺し、強劫、放火等なり。されど国を立しより以来反叛を起せしもの一人もなく、又人を殺すものハ毎年多少定まらず。強劫ハ毎年二あり。又放火ハ二十六部中に毎年五六人にハ過す。又強姦は毎年二三人あり。情姦もまた時々あり。其外争論、喧嘩等あり。

先馬沙諸些の一部を以て言へハ、法を犯して監禁するもの、文政四年七十一人、同五年八十四人、同六年九十一人、同七年百七人、同八年八十六人、同九年九十六人、同十年八十一人、同十一年八十人、同十二年百四人、天保元年七十九人、同二年百十五人、同三年七十一人、同四年七十六人、同五年百十九人。文政四年より天保五年まで十四年の間監禁するもの、合せて千二百六人なり。

又天保五年の百十九人を委しく言はんニハ、窃盗するもの八十八人、又己か名をかくし偽造



亜墨利加銭図  
蛮名「ダールトル」

\*一部省略

刑法のこと

を成すもの十人、強劫オシハキするもの四人、放火するもの一人、争鬪するもの五人、情姦マオトコするもの六人、強姦するもの二人、脱逃ダツツウして又捕へられたるもの一人、人を殺したるもの二人なり。

又刑法ハ三刑あるのミ。一人ハ絞殺シメ、二ハ監禁エイゴウ、三ハ罰贖クハリヤウなり。其外桀首ハリダク、充軍エントウ、拷打タ、キラヒ等の刑なし。凡反叛、殺人、海盜、強劫、放火等ハ絞死の刑也。又昔ハ法を犯すもの甚た多くして牢ロウより出るといへ共、又犯悪を成す事前より甚だし。是二よりて中古より規模キボを改め二十六部の監内ロウナンの犯人を兩途に分ち、善きものハ広き監に入、悪しきものハ狭き監とし、俱に相見さる容になして事業をなさしむ。

日曜日の禮拜日には  
罪人に學問をさせる

又サンテイの禮拜日にハ學問をなさしむ。故に監ロウより出て後ハ前非をあらため、又業を習ひしゆへ生涯安穩に暮すとん云り。

法を犯す者は少ない  
(万次郎)

又万次郎云、亜米里加州にてハ法を犯すもの甚た鮮スグなし。人を殺したるものハ死刑とす。其為、悪業をなしたるものあれば所々に建札を出し、日限を定めて云、この仕業なしたるものなり、殺すべきやいなやと衆人にしらせ、入札せしめて刑法を定むる也。

又入監中諸業カケヲならはしむゆへに、追放の後、生業の基となる事多し。

また絞刑カケハ柱を建て細繩をつけ、高三四尺許なる箱を置、其上へ罪人をあげ、右細繩を首にかけ置、罪の次第を讀終るや否や箱を取バ、其俣首絞りて死るなりといへり。

アメリカは二十四時  
間制

又彼国にてハ一日二十四分の一を一時とす。故に昼夜二十四時なり。異人、吾等に云、日輪ハ三百六十五日に東へ一周し、又地球チキウハ一日二十四時に東へ一周す。これを疑ヒ、日輪か昼夜二十四時に西へ一周するものと思ひ、又地球が動かざるものと思へハ、これを見るべしとて、蠟燭ロウ二火を

ともし、左より右へ周らし見せて、もし日輪か如斯動き周るもの成らハ、日輪ハ矢よりも疾き理なれハ、日輪の後へかく火光を引くべきニ、然もなきハ、日輪ハ動すして地球の一昼夜二十四時に東へ一周して、日輪の動さる事を知るへしと云り。

又地球機を出し火を上にともし地球をまハして今ハ 皇国ハ朝成又伊吉利須辺ハ午刻ならんと、地球を動かして地動成事ヲ指<sup>サシ</sup>点<sup>テ</sup>ゆ。

〈参考〉

参考

『遠西観象図説』

視動と実動

観象図説ニ視動、実動といふ事有。譬へハ船にのりて川を下るニ船の行事を知らず。反て岸の退くかと思ふ。これを視動といふ。其実ハ岸退くニあらずして、船行くなり。此を実動といふとありて、他の動くをしらずして日輪動くと思ふハ視動なり。

委しき事ハ本書を見て知るへし。又異人の灯火を以て地動をさとしたるハめづらしきよき譬へ也。

閏年のこと

又毎年月々の日数定まりて三十日の月あり、又三十一日の月も有。二月のミ二十八日なり。されと閏年ハ二十九日なり。又一年の日数ハ三百六十五日に定まりて、四年目三百六十六日なり。此を閏年と云。

〈参考〉

参考

西洋の暦法

此暦法、西洋にて正、三、五、七、八、十、十二、此七月ハ三十一日也。又四、六、九、十一、此四月ハ三十日也。二月ハ平年二十八日、閏年ハ二十九日也。彼の国の正月元日は 皇国の冬至より十一、二日目也。今乙卯の年を彼国の千八百五十五年とす。

アメリカ暦と皇国暦

亜米里加暦

皇国暦

\* 1855年1月

正月元日

寅十一月十四日ニ当ル

1日は安政元年寅

二月一日

十二月十六日ニ当ル  
(十六日か)

十一月十三日に当

三月一日

卯正月十四日ニ当ル

たる。以下同様に

四月一日

二月十六日ニ当ル

皇国暦は各1日繰

五月一日

三月十六日ニ当ル

り上げるのが正し

六月一日

四月十八日ニ当ル

い

七月一日

五月十九日ニ当ル

八月一日

六月廿日ニ当ル

九月一日

七月廿一日ニ当ル

十月一日

八月二十二日ニ当ル

十一月一日

九月二十三日ニ当ル

十二月一日

十月廿三日ニ当ル

アメリカの休日

参考

又正月元旦、五節句等の式なし。ホーテジユライ、「ケシメシ」「サンデイ」、此三ツの式あるのみ。

万次郎云。正月又五節句等の規式キシキなく、月毎ニ七日目々々は上下共ニ家業を休むのみ也。是

をカアドといふとなん云り。

カリフォルニアは通年  
皇国の九月頃の氣候

又彼地ハ通歳大休 皇国の九月頃の時候成共、二月ハ裕ジュバンに縹ヒトモノ、其余ハ単衣ヒトモノニても居らるゝ也。

〈追考〉

カリフォルニアの氣候

追考

此地ハ北緯四十二度の地なりといふ。されハ 皇国の津軽、松前辺と相容なるべきに、さもなくして常に九月頃といふハ信かたく思ふ人も有らん。されと寒暖ハ度数にてハ量られず。坤輿図識ニも熱帯の地ニさのミ熱ならざる地あり。又寒帯の地ニ寒ならざる地あり。又彼土ハ氷海の寒風を受ざる地にて年中暖成もの也。此サンフランシスコ、コーは東北共高山にて屏風を立てたる如き国形にて、寒風をうけざる故かく成らん。又異域寒暖の説は三才正蒙其他諸書ニ記したれハ、今ハ略ス。

カリフォルニアでは雷を聞かず雨少なく

彼土ニ在しも久しけれど、逗留中雷ハ聞す。雨ハ三四度のミ降りたり。風ハ多く申の方より吹也。されど大風ハ然らず。

〈追考〉

追考

アメリカの氣候（新国図志通解）

図志通解ニ、アメリカ州の寒暑風雨を委敷いへる章有。略して大旨を記ス。一年の四時同しからず。毎月の寒暑も又異なり、故ニ万物の生育自ら齊しからず。其大略土地の美悪を知らんと欲セハ、必まづ寒暑風雨の候を知る故ニ一寒暑針を設け、年月日を以て之を明らかにすれハ、則其寒暑を知るへし。風信を知らんと欲セバ、必須年月日を以て是を記すへし。方に其大略を知るへし。

ボストンの氣候

馬沙諸此部は波士頓城の如き毎年北風三十日、西風四十九日、西北風四十三日、東風三十二日、東南風十六日、南風三十七日、西南風八十八日有。

ワシントンの氣候

華盛頓城に在てハ北風五十六日、西北風八十七日、東風十六日、東北風三十五日、東南風二

バトールージュの氣候

十四日、南風四十日、西南風五十五日、西風五十六日。

累斯安部の巴頓而礫城ニ在てハ、十一月内北風ハ則三十九日、西風七日、東北風十一日、東風五十九日、東南風十六日、南風七十一日、西南風十五日、西風一百四十六日。

土地の美悪も又知るへし。雨の多少を知らん欲セハ、須く上年毎月日有天の星辰、雲霧を記して考へて之を知るへし。馬沙諸些省波士頓城ニ在てハ、毎年二約二百二十四日天晴。八十四日雲ヲ起し雨を下す。二十四日雪を降らす。華盛頓城ニ在てハ毎年天晴二百二十二日。雲を興す事五十八日、雨を降す事七十二日、雪をふらす事十三日。

累斯安の巴頓而礫城ニ在てハ、十一月内天晴百六十二日、雲を起す事七十六日、雨を下す事九十七日、雪を降すハ則なしと記と有て、彼国にてハあらかじめ定期あれと、

皇国は天然の要害に守られた、異人の恐れる

『鎖国論』

皇国ハ御神の御はからひニて、海岸杯は時成らす暴浪、逆風、烈雨有て、時候不和なる国なりとて、異人の恐る、国なり。又ケンプルカ鎖国論に云へるは、日本ハ東方隔絶の境にあり、造化又是に恵むに勝れて、暴猛老險の海を以てして、殆行て至るへからず。攻て克べからざるの地たる事を行せしぬ。是ゆへに、南方諸国より渡来する海船周歲の内多くハ暴風、逆浪を犯すの時ニして、我徒の舶行に用ゆへきの日ハ僅ニ少許の間成のミ。巖石多き海岸に接するニ、曲隈浅水充滿せるの海を以し、大船をおくる処なし。但ニ一箇の佳港有て、稍著大なる船をも容る、ニ宜し。これを長崎港といふといへり。

猶風の事ハ、下の神風の条ニ詳密しく記ス。

清太郎云。墨是可に 皇国人の子ニて名ハ知らず。此人今墨是可の「ソージヨ」となりて鳥銃子

長崎港

メキシコにいる皇国人

成共、才勇ありて、諸人畏服する由。此地にて「タメスチャアエ」かたれり。又唐国の上海にても乙吉いふ。皇国人の子、今墨是可国ニありて、合衆国ニ墨是可の地をうばわれたるを取かへさんとして勇ミ居る由、語りき。

〈追考〉

追考

アメリカとメキシコ  
の争い（万次郎）

万次郎云。合衆国と墨是可との間ニ「テシタ」と云国あり。此を二国より争ひて鳥銃を放合ふを沖より見たりといへり。然ハ此時の事ならん。

写真のこと

近世外国々にハ奇成葉有て、鏡に其葉をぬりて万象の影をうつせば、即染着て永く消滅せずと云。己か肖像、父母妻子及び兄弟朋友杯の像をうつし持たるもの多し。

写真の撮り方

其術の大略を聞ニ、畳八枚敷計成る室の表三方を聞きて明を取、其中央ニ椅子あり、其前ニ一尺七八寸許成台の上に箱をのす。かくて此室悉素色ニす。蓋彩色有ものハ鏡に色のうつらん事を恐る、成るべし。さて移さんとする其人を、彼椅子ニ倚て顔色、衣服を整へしめ、其術は彼方の暗室内の内にて彼奇葉を鏡面ニぬり、鏡面を覆ひて持来り、箱の内へ押直し其覆を取ハ、やがて其眉目鬚髪より衣服の紋ニ至るまで微細ニ移りて、其影宛生動するかと疑はる。古今医統ニ載たる画写鏡法杯とハ同年の談ニあらず。父母没後ニも鏡を開けバ、生存の日に相見るが如し。

写真の父母は生きて  
いるかのよう

其他珍禽、奇獸、異華、怪木、何にても後世に得がたき物ハ必うつし止て蔵むといふ。かくて年月を経て鏡くもれハ研清めしむるニ、曇りハ去りて、其影依然として益鮮明也とぞ。

又大船軍艦にハ必大鏡を齎して外国の津へ着毎ニ鏡を捧げて影を引き城郭、市店、民居、村落、悉く模写して去るといへり。

サンフランシスコの地勢  
不毛の山と砂地

金銀鉄は多い

又此サンフランシスコの山ハ、日本と大抵同容成共、不毛の山多し。川ハ至て少なし。地ハ砂地多し。又溜り池ハあれど造池ハなし。井戸ハ市中にて一ツより見当らず。金銀ハ小魚より多く出て鉄も多し。又黄銅も相応に有。真鍮ハ少く、又此辺の地を見るニ山七分、平地ハ三分にて、地を開けハ何程にても田地ハ出来るなり。され共雨少く池川の水なき土地なる故、水ものハ出来かたからん。

稲麦は見当たらす

〈追考〉

又田ハ見当らず。畑有て芋、葱、蕪、大根等ハ見たれど、稲麦杯外容のもの見当らず。

ニューヨーク辺の畑  
作（万次郎）

万次郎云。ニヨロカ辺の畑作の内、大根漸く此節渡りて大指位ニ出来たるを人々珍しかりてミせ廻りしといへり。

畑は馬で鋤く

畑ハ馬にてすき、鋤ハ利鋤のことく風呂なく、鋤ハ日本の鋤より小さく見ゆ。墨是可ニハ米両度出来、南亜米里加ニハ綿多し。ニヨロカハ 皇国同様にて、五穀其他も皇国ニ同しと異人いへり。

〈追考〉

追考

畑作など（万次郎）  
万次郎いふ。麦、蕎麦等を刈にハ、柄の長さ尋余も有。大鎌にて一間程つ、一鎌に薙取る也。其跡をこまざらへの様成物にてかき集め、こなすをは車を馬に踏まわさす様ニ仕かけてこなす也といへり。

メキシコの畑作（孫  
市）

孫市云。亜米里加の内に米を作る所もありと聞及べり。され共此辺にてハ見当らず。小麦ハ沢山ニ有といへり。此辺といふハ墨是可の内マリタラの事也。

メキシコの畑作（亥  
之助）

亥之助云。墨是可のサンホセの近国の年中早魃なる故、川水沢山の地成らてハ稲作りはなら

ず。されと川か、り便利の地ハ、二月に植、五月に苜取、跡へ又植、八月九月の頃刈取なりとありて、墨是可ハ赤道に近き国にて雨降る事稀成故、稻ハ生りがたしとミゆ。されど水ある地ハ熱国なる故、両度も作らるゝとミゆ。されど 皇国のごとく産するニハあらず。又坤輿図識、土産穀類<sup>ホメ</sup>最<sup>ホメ</sup>を上とすとすれとあれと、此又信しがたし。又ニヨロカにてハ、米は皇国同様ニ産すといへ共、万次郎か説にハ、米ハ唐天竺より精米にて渡る由成ハ、是又信しかたし。

日蝕、北極星、三日  
月

又一年も居たれど蚊ハたえて居ず。日蝕ハ六月廿八日と思ふ日に見たり。月蝕ハ十月に見たり。

〈追考〉

追考

三日月

三日月の出るハ 皇国と同じ事成共、前二も記したる如く彼国の朔日、皇国と異成故成ハ也。

アメリカの国王のこ  
と

亜米里加の国王は十六人にて廻り持成よし二聞けり。又今王の前王の名をホーシテン、其前王を  
ワーシテンと云。

〈追考〉

追考

国王は選挙、任期は  
原則四年（万次郎）

万次郎云。亜米里加の王城ハ、ヌヨラカと云所にありて、王ハ四年目ニ代り合ふ也。其王を撰ぶは、諸国へ出張仕居る人の中より力量、才智、学問等に勝れ、下々よく帰服なす人を撰びて、四年の王となす。されど万人よく帰服する時ハ年限満るといへ共、又四年王を勤む也。今の王の名をテヘラといふ。王位ニ居る内ハ一日ニ凡銀錢千六百枚許を領し、又王位を退く時ハ此を持って安逸ニ暮すなりといへり。

歴代の国王(『海国図志』)

又海国図志に、初王華盛頓ハ、今乙卯を距事五十六年前寛政十二庚申年ニ卒ス。其翌享和の元年より文化元年迄四年、阿費遜王となる。其翌十年より文政三年まで八年の間、馬底遜王位を勤む。又翌十一年より天保三年まで四年の間、阿丹士の子王位となる。また翌四年より同十年より八年の間、杳其遜王位を勤む。翌十一年より泛標倫といふもの王位となるとありて、其後ハ記さず。此図志ハ十余年前の書成る故成ハ也。

扱、両証のごとく国王ハ下賤のものといへども力量、才智、学徳ありて、諸人帰服するもの成ハ、忽国王と成る也。又「ホーシテン」「ワーシンテン」の二名ハ解とす。

身分低くとも力量などあれば国王に選ばれる  
今の国王はフィルモア

今王の名を喜代蔵「フリーフリヘルモ」と聞たりと云り。丑の六月 皇国へ奉りし書ニハ大合衆国大統領姓斐謨、名美辣達と記しあれば、今王の名ハ美辣達成るへし。「フワフリヘルモ」といふハ、「フワリフリ」は姓成るや官成るや解しかたければ、「ヘルモ」ハ彼理成らんか。

アメリカの州数

又国王ハ十六人まわり持成といへるハ、二十六人の聞誤にて、海国図志ニ首領を立、国法ヲ設るの止十三部有、寛政三年辛亥年華滿部を増し、同四年大基部を建つ。同八年典尼兩部を増す。享和二年阿□阿部を増す。文化十一年累新安部を増す。同十二年引底安部を増す。同十三年美士細比部ヲ増。同十四年伊理奈部を増す。文政元年亜喇羅麻部を増す。同二年緬部を増す。同三年美蘇里部を増す。天保七年美是可及び阿干蘇部を増、通計二十六部、戸口凡千三百余万ありと記し有て、十六人ハ二十六人の聞誤にて、此二十六部ニ国王の才徳あるものを四年毎ニ撰ひて一部毎の首領と成、又四年毎ニ其二十六部より諸人帰服するもの一人を撰ひて王と成也。

されど坤輿図識に共和政治州と称するもの三十一国云々とあり、又万次郎ハ三十四州成る由いへり。此二説ハ伝聞の誤成らん。今ハ図志の説による。

アメリカは国王に非ず、大統領  
帝 国  
大統領にて、国王ニハあらず。此を天下ニ通称せるは異人の書に、万世界ニ五帝国あり、皇  
帝、都兎格帝、独逸帝、魯西亜帝、支那帝、此五国のミ也と有。されど扠蘭西も偽帝ナポレ  
オン卒して後帝国ニ成しと云説もあれど、未だ実証ヲ聞かず。

王 国  
其次ハ王爵にて、王国と称する国は英吉利須、李漏生、第那瑪爾加、伊斯ハニヤ、波爾杜瓦  
爾、意太里亜杯の国々を、王国とハ云也。又和蘭も本ハ侯爵の国成けるが、文化年中扠蘭西国  
偽帝、兵乱を起せし時、和蘭国の太子「フリンハシテオイクワルテレリス」と云もの勇猛ニ  
て、「ヘリアリシセ」の地にて、敵の鉄炮ニ当りて手負たるをも事ともせず、扠蘭西勢を追崩  
せし故、偽帝「ナホレラン」の勢惣敗軍と成、其功によりて、魯西亜帝より王爵を免せしより、  
王国とぞ成りにける。

帝 国 と 王 国  
さてかく何程強国ニても帝国の免しなけれハ、自ら王国とハ成がたく、又支那国ハ阿片煙一  
条の兵乱、近年ハ洪（頭注による）秀泉の内乱にて、帝爵を除といふ説有れと、此又実証を聞す。  
又南北の亜米里加諸州は、近年独立の国と成たれ共、国の首長ともいふべき者ハ、大統領役ニ  
て王爵ニハあらず。故ニ北亜米里加国も、皇国より王爵の勅許を下し賜はらむ事を望ミ居る由、  
風聞あり。

天皇は万世界の一大  
君  
さて異人ハ 皇国を帝爵の国成と独逸、都兎格、魯西亞、支那杯の賤き国とひとしなニ云成

異国魂となりたる者は「愚盲人」

皇国は万世界第一の本つ国

天照大御神  
高御産巢日神  
邇邇芸命

るハ、不須也凶目汚穢言ひさま成れば、皇国は鎖国成る故、何事ニまれ異国へハ知らし賜はぬ国法成れば、いとも尊く、皇国の天皇ハ万世界の一大君にまします事を知らざるハ理也。よしや異人ハ兎も角もあれ、かゝる目出度鎖国に生れながら、汚穢異国魂と成りて、支那の孔丘杯の道を尊信するものハ、皇国を東夷の国杯と賤しめ誘りて、唐国を称美、又印度の釈迦の道を学ふものは、神を賤め、仏を尊信す。又蘭学を成輩ハ、西洋の事とだにいへハ、何事ニまれよきと思ふ。此等の愚盲人に、皇国ハ異国ニまさりて尊く、又皇国の天皇ハ異国の帝杯いふものとハ甚異ニして、万世界の一大君にましく上もなき尊き天皇になもおはします事の大略を記して、彼愚盲人等を警し諭さん。

天地開闢の正説ハ、皇国にのミ伝はりたり。されど此開闢は、皇国のミわかるゝにハあらず。万世界の開闢ニて、異国ハ神の産賜ふ国ニハあらず。自ら泥砂塩水の凝りて成りし国也。皇国ニハさニあらず、御神の生成し玉ふ国成ゆへに、万世界第一の本つ国也。もとつ国成ゆへ古伝説も異国ニハ伝はらされど、皇国ニハ正しく今に伝はりたり。

扱、天地ハ斯開けぬれど、狭蠅成す荒振神のミにて、其を治め賜ふ万世界の大神のなかりける故、今も千万国を御照しますます天照大御神、高御産巢日神の御勅命を以て、千万の国の本國たる豊葦原の中つ国ハ吾子孫の君と成りて、千万の国を治むべき国成とて、御孫日子番能邇々芸命に、汝往て八紘治むへし、天津日嗣の降まさん事天壤と共ニ窮りなけむと宣て、大御手に天つ璽を捧持して邇々芸命ニ宣賜ひて、此國に天降し賜ふゆへニ、吾天皇ハたゞ皇国の大君におはしますのミにあらず、世界万国の総大君になもおはしまして、此邇々芸命より今二皇

統連綿たる事、御神勅のごとく天地の道きはミ、日月の照す限りハ幾千世を経るとも動きまゝぬ、万世界の大神ニもおはしまして、いと奇しく尊く上もなき大神ニまします也。

斯目出度 皇国に生れながら、異国の賤しき王とひとしく思ふハ、なげきてもなげき足はぬ愚盲人にこそありけれ。異人すら 皇国の天皇を「ケースラレケンユルツケイツル」と尊ミ奉り言ふ也。此ハ鎖国論ニありて、世に出賜ふ世の間の帝といふ意にて、吾神典をしらぬ異人すらかく崇め奉るを、吾大后の尊くまします事知らぬは、異人ニも劣りたる愚盲人にて、異国の帝といふ一二を云はんハ、先唐国の帝といふものハ、本韃靼より出て、何なるものの子孫とも知れざるもの成と、威ありて明の国をうばひ取得て、終ニ帝となりたるものにて、本は賤しき奴なり。

唐国の帝は韃靼の出自

ロシア帝はローマの出自

トルコ帝は韃靼の出自

又魯西亜帝ハ羅媽人、都兒格帝ハ韃靼より出て、皆清帝のごとく賤しき奴より起りて、終ニ国をも奪ひ取て勢あれハ、諸人恐怖して帝ともいへと、皇国のごとく掛まくもあやニ尊き天照大御神の御孫にて、今ニ動まざらず皇統連綿として、万世界の総大神ニもおはします天皇と、一並ニ思ふへからず。

皇国ハ何事も異国へ知らし賜ハぬ国法なる故、かゝる尊き大神の神代より皇国ニ隠れまします事を、異人の知さりしも理也。然るを数万年 皇国ニ溟滓てきざしを含ミ賜ふ大神も万世界にあらはれ賜ふ大神代成ハ、いともうれしくよるこばしき事譬ん方なく、芽出度大神世にぞありける。かゝる故、よしある事をよく考へざりて、異人との応接ニ夢々天皇の御威徳をおとし奉るべからず。

クリスマスのこと

又かしこにて皇国の十一月中頃とも思しき頃、「ケシメシ」といひて馳走して会食せし日あり。「ケシメシ」とハ何事成よし異人に問ければ、昔亜米里加国の始て開きし日にて、当亥年まで千八百五十一年となりて、此日は上下とも此のごとくに祝ふと語れり。

〈追考〉

追考

アメリカの起り

亜米里加国の開闢といへど此国の開闢ニあらず。此ハ西洋の中興革命の事にて、此亜米里加国ハ二卷にも記しごとく、今乙卯を距る事百九十四年前、万治年中に初る。英吉利須人此地に人種を移せしより年々に開けし国成ハ、何事も皆西洋の教道に化りたる国也。故ニ此開闢といふも西洋の革命の事にて、此国の開闢ニ非ず。因ニ去異国の開闢の事を諸書によりて大旨をいはん。

支那の起り

先支那国にては梁阜安の任昉術異記に曰、昔盤古氏之死也頭為二四岳一、目為二日月一、脂膏為二江海一、毛髮為二草木一、又秦漢之間の俗説に盤古氏頭為東岳腹為二中岳一、左臂二南岳一、右臂為二北岳一、足為二西岳一、と有。又先儒の説に、盤古氏泣為二江河一、氣為二風声一、雷目瞳為電、とあり。又古説ニ盤古氏喜為二晴怒為二陰一、と有。

又呉楚の間の説ニ、盤古氏夫妻陰陽之初也など、有。此は全く、皇国の古伝説を訛て伝へたるものならん。

アダムとイブー西洋万民の始祖

又西洋にてハ、造物主天地を造成して後、二塊の土を以て人の象を造る。男を亜当といひ、女を厄讒といふ。此万民の始祖也。是より一千六百五十七年後亜細亞、歐羅巴、亜弗利加等百五十日の間大洪水にて、人民残りなく溺死す。此事を聖徳の諾厄といふもの、前二知りて、大

ノアの箱舟

イエスの誕生

なる箱船を造りて此災を避く。此子孫又蕃茂して一大洲と成る。此を新世界と云。

又開基より三千九百四十七年に当りて、如徳亜国に一人の女子ありて、夢に神靈聖徳の男子を孕む。其聖王誕生の次の年を以て、中興革命の元年となす也。されど都児格ハ嗎哈默多の法教なる故、嗎哈默多默加といふ地より追放せられし年を以て紀元第一年と定む。

さて本文に亜米里加の開闢といふハ、此革命の事を云なり。さて 皇国の開闢は前条ニも粗記せしごとく、皇国のミの開闢にあらず。一地球、万世界の開闢なり。又 皇国の人ハ皆神の御末ニて万国の異人に勝りたる事ハ、皇国人ハいはず共、夷人いよくものニ記し云へる事なり。

異人は皇国人に劣る

さて異人の始祖ハ前ニも記したるごとく、土人形より成たる人種なれハ 皇国人にハ劣りたる事、広信の言を得ずして知り玉ふべし。此一条に諸書引証数多ありて言足はぬ心地すれど、長文ならん事を思ひて略す。

アメリカは国土広く、移住者が多い

亜米利加ハ国広くして人民少なく、又異国人多く来たりて住すと聞けり。

〈追考〉

追考

アメリカの人口（『海国図志』）

海国図志に、国中地広く人希成。近年是を計るニ、寛政二庚戌年ニ在て、戸僅に三百九十二万九千八百廿七口。天保元庚寅年計るニ

シロヲトゴ  
白男五百卅五万三千零九十二人、九十歳以上百歳ニ至る者二千有四十一人、百歳以上の者三百有一人。

シロオメナ  
白女三百十六万八千五百三十二人、九十歳以上百歳ニ至る者二千五百二十三三人、百歳以上の  
エウロツハ人ノタチ

者二百三十八人。

黒男十五万三千一百八十四人、百歳以上の者二百六十九人。

黒女十六万五千七百八十人、百歳以上の者三百八十六人。

奴僕百有一万二千零七十五人、百歳以上の者七百四十八人。

奴婢九十九万五千五百四十四人、百歳以上の者六百七十六人。

白瞎人三千九百七十四名。

黒瞎人千四百七十名。

白の聾啞人五千三百六十三名。

黒の聾啞人七百四十三名。

統て共二千有二百八十六万六千九百十九人とあり。又同書二十六部の事をいへる条ニハ、天保七年に計るに千三百余万（頭注による）口とありて、聊たがへり。又坤輿図識にハ人口を記さず。

アメリカの広さは皇  
国の十七、八倍

さて合衆国ハ土地善からざる国成ども、大凡 皇国を十七、八部も兼合たる大国也。されど  
百余年前より開墾したる国成故、人口少きなり。皇国ハ十七、八分の一分の国成りといへ共、

人口衆多なる事ハ又此に倍す。弘化年中ニ計るニ、人口二千二百九十一万七千八百三十、内男

子千三百八十一（頭注による）万八千六百五十四口、女子千二百九万九千七百七十六口と有。此ハ皆

土着の人のミニて、其心勇猛なるゆへ彼国人に比すれば 皇国ハ十倍す。其上彼国人ハ、諸州

より合衆したる人なるゆへ、兵乱生死の場に至りてハ衆人心ニ致成がたし。皇国人、異国人

を敵とする時ハ、大八洲国ニ生れたるもの皆味方ゆへ、皆心ニ致す。

異国を学ぶ者は皇國を誘ふ傾向がある

皇國人は勇猛、アメリカ人は懦弱

アメリカの大艦大砲は恐れることはない

されと異國の道を学ひて異國を尊信するものは、やゝもすれハ 皇國の事ハ何にまれ悪しきと思ひて、吾産國の学ひを誘ふ奴あり。此は吾國の主を誘ひて、他國の主を称美なり。其内心、生死の場所ニ至りてハ計りかたからんと思ひつれども、この異國魂の奴ハ兎も角もあれ、皇國ハ人口多く其上勇猛にして、心一致仕安し。又亜墨利加は人口少く、其上合衆にて心懦弱成ハ、心一致仕難し。

又万一吾海岸にて兵乱に及ぶとも、彼ハ客船にて、吾ハ主陸成ハ守るニ利有。又彼ニ大艦大砲あれと、吾ニ弓、槍、刃の妙術あり。大砲は筒の大小、恰好、葉の多少ニよりて遠近定まらずといへ共、遠間にてハ葉の力及びがたし。中筒ハ二十間より四五十間を要とす。又弓ハ二十間内七八間の敵を防ぐにハ、其早業鳥銃に勝る。又其より近く進む時ハ 皇國固有の鎗、長刀、劔の奇術有。総て遠間の業ハ退くに利有。短き物の業ハ進むニ利有。

大艦大砲は海防に必要

されど 皇國ニは大艦無けれハ、弓、槍、劍ありといへ共進ミがたく、故ニ異船を近付打に利あらん。されど 皇國も異國のごとく大艦、大砲を製造成て其業を得て進退奇正の術を心のまゝニなす時ハ、合衆懦弱の異人とも軍艦数万にて吾海岸へ責来る共、赤子の大人に敵するごとく恐るゝに足らず。

此ハ異人も兼て知居る事と見えて、若日本人 大艦、大砲を造りて、其業を熟得する時ハ、盾に翼を生たることく也と、常ニ異國人いへれば、大艦、大砲は実ニ海防主用のものならん。猶海防策ハ六の卷ニ詳密ニ記す

アメリカ軍艦はフランス議り

亜米利加の軍船ハ本ハ扶蘭西國より伝へて、今ハ軍艦九十艘あり。又英吉利須ハ九百艘あるよし

聞たり。

〈追考〉

追考

軍艦本ハ弘蘭西国より伝へたりといへるハ、英吉利須と戦争の時、弘蘭西国より合衆国の加勢ヲ成したり。其時貫ひたるを云ならん。

『坤輿図識補』  
フリゲート艦  
又船数は坤輿図識の補によれば、「フレカツト船」加農炮四十四坐より三十六坐、或ハ三十二坐、又ハ二十六門より二十門ニ至る者合して二十三艘。又一本ニ文政十二年所<sup>レ</sup>記「フレカツト」船四十八艘、其大なる者<sup>カ</sup>迎農炮九十門を備ふと有。

スルーブ船  
又「スルーペン<sup>（船カ）</sup>船大煩十八坐を備ふる者三艘。又文政十二年記せる処十七艘とあり。  
「マリツキ船」大煩十八坐の者二艘。「スコー子ル」船、煩口十二門より十四門ニ至る者五艘。

「カレイエン」船七艘、其船卒船奴を合せて七千五百三十二名、又文政十二年の記載ニハ船卒二万四千八百人、其俸金一歳中ニ二百二十三万六千「チュカト」、又文政十一年ニ至りてハ二層の樓船尋常大煩七十四坐を備ふべきを、本州人ハ九十座を備ふとなり。爾来軍艦を造る事<sup>キケイ</sup>一一年ハ一年よりも多し。其船材造法も日を追て堅実と成る其諸船を常ニ加拿太の大湖に維繫<sup>キケイ</sup>して非常ニ備ふと云と有。

又海国図志ニ文化十二乙亥年始て水師<sup>クワンシレツ</sup>を管領する官を立つ。兵船甚多からず。而るに英吉利須と戦を交る事三年地險<sup>ヒト</sup>に心<sup>ヒト</sup>齊しく水戦練習ニ其名終ニ著はる。原大兵船十五艘、中兵船廿五艘ニ、兵船一十三艘、火烟輪兵船一艘を設く。近年船用に敷ざるにより兵船を造修し復船<sup>フネ</sup>廠七彫刻場二所を設て歴年水師に支発する銀二百三十一万八千員、船を修する銀百有六万五千員、

軍艦のこと(万次郎)

津貼銀七十八万二千員、船廠を修する銀七十九万八千一百二十五員、水上費用銀四十三万八千七百四十九員、南極を巡査する費用銀三十万員、需に共する銀五百九十万有奇(ままと記セリ)と記セリ。又万次郎いふ。軍艦の大なるものを三段船といふ。石火矢七十挺づ、三段に備へ左右二発つやうの仕掛ありて、檣ハ三本、帆三十端(頭注による)、水主五百九十人乗。二段船ハ七十挺づ、二段に備へあり。人数三百人乗、檣三本なり。小船筒数二十四挺、人数百五十人乗、檣二本、帆二十端也といふと云へり。

イギリス軍艦の数

『坤輿図識補』

此等の説ニよりて見れば、年毎ニ船数増して多くとも少なきニは降らず。又英吉利須軍艦の数ハ文化十一年記ス処によれば、軍艦大小八百二十四艘とあり。猶詳密き事ハ坤輿図識の補ニありきて、異国ハ兵船多くして航海の業を常と成す故、水練船軍はよく習練なし居れど、皇国ハ異船造りこれまで御制禁ニて、武士ハ馬上ハ心得居れと、船中の業ハ元より船ニ乗たる事稀成ゆへ、横渡しの川船にさへ碎て嘔吐をなす武士の世成ハ、何許大艦製造ありても船に乗馴ざる時ハ、高名を成す猛勇の武士も戦はずして忽病人となり、生死の堺に至るへし。

『海国兵談』

此事ハ林子平も海国兵談に呉々いはれたることニて、吾珍しくいふニハあらず。先哲の糟粕をなめていふ也。

海上の訓練も必要  
(清太郎)

此事ニ付て漂民清太郎の嘯あり。さる時国の士なりけるハ従者十人許召連船に乗られしが、武国成る国柄ゆへ、陸ニてハいと權威強く扱はれたるが、船に乗て二里許沖へ乗出しけれハ、忽船に碎て煩悶転倒して嘔吐をなしけれバ、今まで美々しき衣類も嘔吐の為に目もあてられぬ有様となり、いとあわれに細き声ニて、徒士よ若党よと呼つれども、皆同じさまになり。

漸草履取とも思しき跟随シメベ一人かくまで碎ざりつるか、此もの一人にて顔の汚れを拭ヌグひ杯して看病したる有様、陸にてハ天晴美々しく權威強かりし武士も、忽かくなりたまふ事のあはれさよとて、船中の者とも氣の毒がりしとなん語りき。

武士も常に乗馴たらんニハかくハあらざるまじものを、横渡の川船のミならてハ乗たる事なき武士多き世なるゆへ、かく碎たるも理也。

倭寇  
『海国兵談』  
されと昔ハ知らぬ唐国迄も、公の御使にやことなき人等の行かひ給ひし事、古き書共ニ見ゆ。又中古ニも忍々に行たるものもありしと見えて、唐国ニも 皇国人海岸杯ニて乱妨なしけるを、和寇と、なへていたく恐れて、皇国へ訟ウツクへ来りし事杯見えたり。

また海国兵談に、異国の武備志ニも海寇を防禦する手段やうのさまあれども、是ハ唐山ニて、倭寇と名付て日本の海賊船を防く仕形にして、甚手輕カルき事ども也。是を吾国防禦の手本とハ成がたしといへるも、此事也。

『采覧異言』  
又采覧異言サイランイゴンニ、慶長十三年呂宋ニ賜ふ所の御制札に、近年到ロツンニ其国ニ日本人作シ惡逆ニ輩有如ニ呂宋法度ニ可レ被ニ成敗ニ也於ニ日本ニ無ニ隔心ニ、云々。これを見れば、国初の頃吾邦人数々彼国ニ至りて海賊せしに依て彼国よりはを告しと見ゆと有。

寛永頃までは海外へ  
又寛永の頃、浜田弥兵衛、浜田八右衛門等七人、台湾へ押渡りて、城主を擒トリコに仕たる事、前卷に記しごとく、又長崎荒木宗太郎、広南へ渡りて国王に謁キツし、国王の娘を妻ニもらひうけて歸りし事杯も有。其他諸書に引証となすべき事数多あれと略す。

『安南紀略』  
又其頃渡海せし船ハ唐船造りニて、彼宗太郎の家に船図を秘藏せるを、守重の安南紀略に写

日本船は支那船より堅固

海外渡航の全面禁止  
(寛永十二年)

したるを見るに、後篇に図す唐船の如くにして、帆数大小五ツあり。されど堅固成事ハ唐船より今の製造の 皇国船の方勝りたりと見えて、肥後の寿三郎等を送り来りし異人の云るに、日本の船ハ二三十尺の長さにして、幅ハ六尺より八尺許、舳先ハ尖れり。是ニよりてミレハ、日本の船ハ、支那の船よりも堅固に造修せる事ハ明なりといへり。

さて中古迄ハかく大洋へ乗出て航海の業もよく知得たるを、寛永十三年 皇国より異国へ渡海一切嚴禁たる旨、被仰出しより、海岸のミならずハ渡海なさぬ世となりけれハ、業となす水主も航海の術未熟にして、軍用ニ立がたく、武士ハ面楫、取楫だに知らず。かゝる世成れハ、船練の業を常ニ習ひ置度事也。此又海防の主要成らん。

広信が愚按にハ、諸大名參勤交代の道中費金ニテ大軍艦を造りて、諸士を渡海なさしめれば船ニも乗馴、終に船業も覚え、軍用ニも立ぬべく思ふ。こハ異船或問に委しく記す。

ニューヨークは繁華の地

「ニョウヨラカ」ハ亜米里加の都府にて、市中も広く美々しくして、何一ツだに足ハぬ事なく、繁花の地の由聞けり。

〈参考〉

参考

『坤輿図識補』

坤輿図識補に、寛政三年の頃、此州英吉利の所屬を離れ、新に不羈独立の国と成る。是時に丁て、闔府の首府となし、大政庁を営むべき地形を択ふニ、「子ウオルク」府、「ホストン」府の如きハ、人火稠密の互市場成共、大政庁を置き征伐軍旅の大事を議し、敵を防ぎ守禦を堅固にする形勢の地にあらず。是に於て、新に土木の役を興して、此府を造築し、此を話聖東と名づく。

名づく。

ワシントンは大だ  
が江戸には及ばない

江戸より大なのは  
北京など

『八紘通誌』

其府の広袤、英吉利須里方にて一百箇里方積、其市街ハ縦横に往還を通す。其道路の幅一百三十尺若くハ一百六十尺、其街数縦横各九十より一百町に至る家造ハ、西洋の時風に擬し、其次序整正ニして一線の曲折なし。大政庁ハ阜岡の上ニ建つ。其他の政所、工場及び園囿の造築は、甚だ堅実ニして宏麗也。但、其初て築きし両三年の間ハ、一市街も人家櫛比せず。彼此ニ散在し互ニ有無を通するに不便成しといふと有。此府の広袤、英吉利里法にて、一百箇里方積といふハ、皇国の三里半十五町四十間四方と成る。又周圍ハ、十四里半十一丁と成る。されと皇国の東都にハ及ハす。

其他諸州吾東都より大なる府ハ、亜細亞州にてハ唐国の北京なり。城外共周圍三十四里八合なり。又亜米里加州にてハ、墨是可の府周圍二十六里余也。又亜弗里加州にてハ、厄日多国の該祿にて外郭より中央迄一日半路あり。斯天下第一の大城なり。其他八紘通志杯を見れば、吾東都より大なるハ見当らず。

又「ケンプル」が鎖国論にいへるハ、日本の宏麗なる言語にも及ばざる所也。然く不大の域にしてかゝる莫大の人数をいふ、事、殆理外なりと思へる人もありなん。其諸太路のごときは、村落城郭連続して殆り列なるか如く、僅にかの一郷を出れば、即又この一郷に入る。行て数里を經れども、唯々一条の街市ニ有るかごとくにして、実ハ衆村の合衆せる事を知らず。此只上古別村成りしを以て、今ハ合一したれども、旧によりて其名を異ニするのミ。又其地城邑多し其著大なるハ大莊嚴及び衆磨なる事、天下諸城の最大成もの、列に有。其一を「キヨウ」又ハ「ミヤコ」といへり。尊称也。都城又ハ首都といふかごとし。「ケーストレイケンユルフケ

イヅル」の御座たり。豎タテ三辰路「二辰路吾半時ニあたる」許、横二辰路許、城下の体甚セイセイ齊整ニして、諸街相接る処其角最方正也。第二十七の図を見よ、又江戸といへるあり。実ハ全国の首都たり。「ウエーレルトケイキケイブル」の御座也。我敢てこれを天下にしらるゝ隠れなき大城の類たりといはん。

第二十の図を見よ。此事我ジカ己に身自ら知る所也。城下の口なる品川より駕して疾ジュウならず。徐ならずして大道を通過して行に、其道実ニ微く屈曲セリとハいひながら、終日にして未だ一方の堺に届事を得ずといへり。さて吾東都の廣大ニして人火稠密チカアウミツ、武士の夥しく住する事ハ異人もよく知る処也。

又老て養ふ子なきもの、或ハ貧人などハ上より養ふ法ある故、亜米里加にてハ乞食などハなしといへり。故にや此「サンフランシ、コー」にも乞食ハ一人も見当らず。

（参考）

参考

欧米は病院、養院、聾啞教道院を設置

病院、養院、聾啞教道院は、欧羅巴州にては諸国ともニあり。亜米里加州も本西洋より開墾したる国成ハ、何事ニまれ彼国風を慕ふ国柄なるゆへ、今ハ西洋風となりて此三院もあり。

そハ新国の貧を濟スズふこと、未だ貧ならずして、預め其貧を防く。既に貧成ハ、則其愈貧イヨクを防く云々、貧人収作傭工ヨウカウして、倘人収用する事なけれハ、則本朝ニ濟貧院を設けて以て之を居く各々分つに事業を以てす。得所頂數を全ふして官に入る。倘モし子女を生めハ、則塾師チユウシ有て之を教ふ。府政も又然り。会城村族ケウに至りて一乞食流離の人有を許さず。然るに先一濟貧サイヒンの法を立るにあらざれハ、又安イツクゾ人の食を乞ふを禁ぜん。凡国を有つもの、宜しく意をとゞむへき処

『新国図志通解』

濟貧館、育孤館、義  
学館など

也と、新国図志に云り。

又同書に風俗教門、各々好む所に従ふ。大抵波羅特士頃多きに居る設けて濟貧館、育孤館、医館、瘋転館杯の類あり。又各々義学館を設け、以て文学、地理、算法を教ふ。又同書に聾盲啞ハ原と無用ニ属す。今国内仁会を立て館ヲ設け訓習し、聾啞の如きハ亦手を以て音を調して之を教ふ。盲者は即凸字書あり。他をして手を以て揣摩して読しむ。幼二して恃を失ふ者ニ至ても、嬰を育するの院有とあり。又紅毛雜話ニも略説あり。此ハ西洋の説なりといへど、亞米利加も本西洋より伝来の三院成ハ、其意こと成事なし。ゆへに附証とす。

貧院

貧院、歐羅巴国中ニ「アルムホイス」といふ府有。明人訳（眞注による）して貧院といふ。是国

幼院

王より建る処にして、鰥寡孤独廢病の者を養ふ。専ら慈悲善根を施す事を第一とする国風なり。幼院、同国中に「ウサスホース」といふ府あり。明人幼院と訳す。是又国中の貧窮成る者、子を生ても養ひ育むへき為方なく、又是を殺セハ国禁を犯せる罪を蒙るゆへ、国王両金の方便を以て是をたつ。下賤なる者のミニあらず、身分貴けれと家貧なる人の為にも設けたる府也。

赤ちゃんポスト

其子を入る窓有て、外より其所に音なへバ、役人内より応じて戸を開き子を抱入るなり。尤年月日時を記したる牌を子の胸にかけしむ。夫より後、乞戻して家に養ハんと思ふ時、先に府に入る、時記したる年月日時を認めて彼窓ニ投入れハ、先の牌と引合せて子を戻す也。

幼院内で諸芸を教える

その府の内には諸芸の師匠ありて、男女の児童各々好む所の芸を教ふ。男子ハ廿歳を限り金銀を与へて府を出し、心の俣に渡世をいとなましむ。女子ハ十五歳を限り金銀を与へて嫁せしむると也。ゆへに國中絶て捨子なしとぞ。

病院

誓願成就の上は金銀を病院などに寄付

船上に慈善箱あり

病院、同国中ニ「カストホイス」と云府有、明人病院と訳ス。此府の使客並二国中の病者ハ、貴賤となく爰二居しむ。医師、看病人、臥具、病架に至るまで備置て闕事なし。国中の大貴人、月輪ツキパンに此府を頼ると也。又国中の貴賤、病難災難ニかゝりたるか、又ハ必願有もの、此三院の雜費にあつる金銀財宝を施入すへしと誓願セイを立、成就の上ニて寄付すると也。

亦蜜船の船の方に「アールムースカス」といふ箱有。「アールムース」ハ施すと、(こと、か)「カス」ハ箱の事也。此箱に彼国王の錠前有。船中のもの願望ある時、成就の上、此箱へ何等のものを入べしと祈誓キセイする也。此箱、船長「カビタン」なり共、私に開事能ハす。本国へ帰帆の上、公吏立合シて彼箱を開き、其内へ施入の金銀を三院の雜費ニあつるとなり。

禁酒  
又酒ハ人性(頭注による)をミだす故によからずとて、近年戒館を四五千館たつ。これによりて自ら酒を禁したるもの二百万人余、又酒造の業を變して他業となりたるもの四五千戸、又酒舖サカヤ売人變して他の売人と成りたるもの七八千店也。猶、詳密事ハ亜米里加風土記にしるし置成ハ、こゝにハ略す

東西異聞卷之三終

東西異聞卷ノ三終

東西異聞卷之四

東西異聞卷之四

アメリカ文字

亜米里加文字

〈追考〉

清太郎の書いたアメリカ文字

東西異同表之四  
証承筆加文字

A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y
Z				

追考

亜米里加洲ハ新国成故、此国本字なし。中古、西洋より何事も渡りたる国なりけれハ、文字も彼国の横文字を用ゆる也。今此ニ写せるは清太郎自ら書たる字にて、下二行ハ万次郎が書たると、蘭字とを付して参考と成す也。又万次郎の習ひ覚えたる草字を記して西洋文字の正体より出たる異体成る事を和蘭父字を付して示す。西洋文字ハ国々に異体多しといへ共、本ハ一体なり。

亜米里加文字

ア	カ	サ	シ	ス
セ	テ	ナ	ニ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ
ル	レ	ロ	カ	キ
ク	ケ	コ	サ	シ
ス	セ	ソ	タ	チ
ツ	テ	ト	ナ	ニ
ノ			カ	キ
			ク	ケ

(万次郎の習ひ覚えた草字)

文字は同字だが、国により字音が異なる

会話は通じないが、文字で意は通じる

覚えぬれハ、言語ハ通セズとも、文字にて其意通す。

皇国の文字  
西洋の文字  
皇国の文字ハ一音にて意ありといへ共、二字三字連合して詞ニなる故、皇国言をしらざれハ通セズ。又西洋の文字ハ二十六字よりなき故、二字連合して一音となる。カ、イ二字合してキノ字と成、キ、ユを連合してクと成、カ、エと組重てケの字となり、カオと重ね合ワせてコと成の類にて、二字三字連合して一音二言となさしむる字法成故、皇国の一字一音にハ劣りて事殺過たり。されと唐国のごとく生涯学ひても字數多くして覚え得難きニハ優りたり。

唐国の文字  
天然の文字  
又天然の文字ハ三十五字にて、活用ハ西洋字法ニ似て、アーイー杯の長声を大空音と云。又アツ、イツ杯の急促声を湿（湿か） 槃音杯（槃）云意味にて、此ハ西洋人の日本を「ヤツパン」と云、又「ヤボ子ーセン」とも云かごとし。

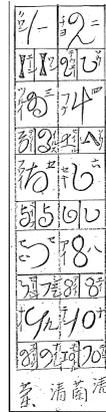
満州の文字  
今ハ略す。  
又蒙古も固有の文字有と聞けど、其ハ未だ知られず。

朝鮮の文字  
計といふもの、皇国神代の文字なりとて人々ニ伝へたり。字体を見るニ此朝鮮字とよく似たり。此ハ朝鮮より対馬へ渡りたる字にて、古くより対馬仮字といひたるものにて、朝鮮文字ハ本皇国より渡りたるもの也。故ニ是又 皇国神字の一体也。

西洋文字の由来、アラビア数字  
さて此外固有の文字ある国々も有ならんと思ほゆれど、広信管見にして及はず。又西洋の文字ハいか成る世にいか成る人の創製したるニかあらん得しらず。されど今乙卯の年を距事四千

『蘭学階梯』

清太郎がアメリカで  
覚えた数字



(数字)

て製たる由、ボイスと云人の撰ニありと蘭学階梯ニ云り。

又清太郎、亜墨利加にて覚えたる数量の文字ハ左に記せる如く、十一ハ一を二ツ書、二十ハ二に〇一ツを加、三十八三に〇一ツを加へ、百ハ一に〇二ツ加へ、千ハ一に〇三ツ加へ、万ハ一に〇四ツ加ふ也。

西洋学問が諸国に広  
まる  
オランダ船、平戸に  
来航  
オランダ人、長崎出  
島へ移転

青木昆陽、オランダ  
語を学ぶ

学者は尊レ内卑レ外  
を心してほしい

さてかく西洋の学ハ諸国に広まりて、何事も彼国風にうつり、其を称美世と成たり。皇国も今乙卯を距事二百五十九年前、慶長二年始て肥前の平戸に蘭船来る。夫より十四年後寛永十八年、始て長崎に商館を賜ひて交易を許さる。これ吾国に蘭学の芽し、初也けり。されど其頃ハ珍器、葉種を持参渡のミなりき。

かくて彼国の学ひの実ニ始まりたるハ、百二年前延享三年ニ青木昆陽、長崎の訳家吉雄氏に蛮語を始て学ばしむ。是ぞ吾国和蘭学の枝葉の生初にて花咲実のりてあかぬ事なく成しは、今の  
の大御世にこそ有けれ。

さて駸々然として其筋を学ぶ輩、いと見だてなき異木ニ花に愛入りて、吾国のあたら桜を見忘たる類ひ多きハいとかなし。此ハ広信一人云ニもあらず。先哲も早く驚したりき。学者ハ常に尊レ内卑レ外の言を服膺してあらまほし。

仏教を学ぶ者はイン  
ドのことを愛でる

漢学を学ぶ者は唐  
(漢) 国を尊く思う

又仏学を成すものハ何事も天竺の事をめで、天照大御神を穢しく弥陀仏の化身なり忤惑ひ思ふハいかによや。

又漢学を成輩ハ何事も漢国ハ 皇国ニ勝りて尊く思ひ、彼国人の云けん事ハ何にまれ信と思ひて、唐土の王をも天子とさへ思ふなりけり。此ハ一国の主とだに成ぬれば自らこそハ天子と思ふぬれ。誠ニ天子と申すハ天下の総皇帝ならてハ申さぬ事にて、皇国の天皇ハ天津神の御子成故ニ、天子とこそ申せ、異国の王ハ賤き奴の智り深くて人を馴付、人の国をうハひ取りて国王と成たるものにて、皇国の天皇のごとく天津神の御子ニあらされバ、国王と云ハむも片腹痛きわざ成るを、まして天子などいはんハ、いとおこなりさるを、この漢学する人もかく思ひて、彼国人のいひたる事ハ何にまれ尊信するは、なげかハしき世のありさまなり。こハ漢学の 皇国に生茂りたる華に心を奪れたる故ならん。

又西洋学も今ハ 皇国に生茂りたる花を称美する人々ハ彼国の王をも終ニハかく思ふらん。天文、地理、医療、工作等ハ 皇国ニ勝りて智深く、又戦法兵器も 皇国ハ彼国ニ及はずと思ふ人もあれ共、此も又漢学者流の如く、皇国ニ用ゐて益有事ハ用ゆへし。されど彼国風にて理を窮ていと深くミゆめれと、実事ニ益なき事多し。又戦法は世の变革による成ハ、今の世、大艦大炮の如きハ用て益あり。されど何事もよしと思ひて、彼国風をしとふ人のミ多く成ぬれハ、西洋は耶蘇教成る故、終ニいつしかしのひくくに、官禁の教法を学ふものも多く出来なんとおもふ。かく成行は実ニ皇国腹中の虫にて、終ニハ身体を悩すべし。故に広信、此事を思ひて、かへすく西洋学の皇国ニ実のらん事を恐る。

西洋学と共に耶蘇教  
の広まるのを恐れる

耶蘇教は諸國に争いを起さず

西洋文字、耶蘇教の広まったわけ

諸國、西洋の属國領地と成りしハ、皆此教法より事起れり。又今魯西亜と都兎格の兵乱も教法より起り、又今唐國の内乱も本ハ教法也。故ニ教法の吾國內ニ入らん事、深く恐るへし。

又西洋の文字並ニ教法の諸國に広まりたるハ、亜米里加南北諸國ハ中古西洋より開墾したる國なる故、固有の文字なく、皆西洋の文字を用ゆ。新和蘭も大成と、近年西洋より開墾したる國成故、此また西洋文字を用ゆ。其他数多の近島も同じ。又亜弗利加州並ニ亜細亞洲、南海諸島、北方ニテハ魯西亜、西方ニテハ福島の諸島（福島の諸島か）等、皆西洋より開墾したる國なる故、すべて西洋の横文字を用ゆる也。七八分ハ西洋文字ニテ、又教法も多くは「キリイケン」教、波羅抵士頓教、「加特刀教」、「羅瑪教」、「ヘイデン」教、「ヨーテン」教、「ヤコヒチャ」教、「ヤヒユマ」教等ならん。

唐文字の広まりは西洋文字に及ばない

又唐國の文字ハ西方ニテハ安南國、東方にては 皇國、琉球、朝鮮等のミにて、西洋文字ニ比すれば其用二十分の一ならん。又教道も同じ事にて、唐土の書をのミ読て聖賢の糟粕に酔ひ、他を知らぬ儒者聖賢の教道ハ、広く世ニ行ハるものと思ふ成と、万世界ヲ掌にのせて打ミる時ハいとせばき國のミ行はれたるさまなり。

唐文字は不便

又其教道も小慮より出たる道ニテ、文字の起元は伏羲の八卦に根ざし、蒼頡の鳥の跡に成れり。又孔子の壁中より出たる文字ハ、今の世の如き字体に非らず。筆も墨もなき世成ハ、漆をもて書たる異体の由。然るを秦の始皇一統したる時、李新、漆を以て書たる不便なる文字を、今の世のごとく筆をもて書く便利よき文字に作り改たれと、皇國の五十字、西洋の二十六字、天竺の三十五字のごとく便利よき文字ニ非ず。三万三千三百二十七字とか。生涯学ひても覺得

『国意考』

がたく、又なくてもよきくだくしき不用の文字もいと多くして、諸国の文字の内にて、唐国の文字ほど便利あしきハなし。此事ハ早く真淵翁国意考にまつ。唐国のわづらハしくあしき世の治まらぬはいはん方も更也。

譬へハ花の一ニも咲、散、藥、樹、莖、其外十まりの字なくてハ足す。又こゝの国所の名、何の草木の名杯いひて別ニ一ツの文字ありて、外に用ぬもあり。かく多くの字を夫をつとむる人すら皆覚ゆるかハ、或ハ誤り或ハ世々に転々して其約にかられるも益なくして煩しく、皇御国もかの唐の字を伝へてより誤て彼ニ蔽れて、今ハ昔の詞のミ残れり。

其詞ハまた天竺の五十音に同しからねど、万の事を云様五十音に通ふ事などハ又同し理にて、右ニ云花をバ、さく、ちる、つぼむ、うつろふ、しべ、くき杯いへハ字をもからで、よしもあるしもやすくいはれて煩ひなし。和蘭ニハ二十五字とか、此国ニハ五十字とか、大かた字のさまも四方の国同しきを、た、唐のミ煩しき事を作りて治まらすことも不便なり云々と記されたり。此ハ明和の頃にて、未だ 皇国学も開けざる時成ども、早くも翁ハいはれたりき。

『紅毛雑話』  
又紅毛（（頭注による））雑話ニ、紅毛人万国の風土を記したる書ニ支那の文字を笑て曰、唐山にてハ物につき事ニ依りて字ヲ製す。一字一義のもの有、或ハ一字を十言、二十言に用ゆるもの有、その数、万をもて数ふへし。故に夜を以て日につき、寢食を忘れて勤学すれ共、生涯己か国字を覚え尽し、其意を通曉する事能はず。去ニよて、己か国にて記したる書籍を容易読得るもの少し。笑ふべきの甚しき也。

歐羅巴洲ハ二十五字の国字を以て少からすとすと有て、吾国人のミにあらず、西洋人もかく

『三音考』

漢字は多くて煩わしい

漢字は一字に多義があり紛らわしい

漢字は同音の字が多く聞くだけでは分からない

漢字は活用がなくなり難い

皇国の言語は異国に優る

いへり。又本居翁も三音考ニ漢国ハ字甚多くして煩ハシ。くだしく返て不便也。爾雅の積話に、林蒸天帝皇王后辟公侯君也、又柯憲刑範辟律矩則法也、又辜辟戾臯也、有か如き、凡テ如此同じことに数多あるハ、各少しづ、義の異成を以て分て名けたるハ精しけれども、其中にハさのミ義の異なる事なきにも数字あるハ無量の事也。又いと精しく分れたりと思へハ、右の内の辟の字の君と法と罪との義ある如く、一字を多義に用ゆるハマきらはしく甚た不便也。又かの後の字を君ニも用ひ、君の妻ニも用ゆるが如きハ殊ニまぎらはし。凡て如は一義に多の字あり、又一字ニ多義あり、一字に多義あらんよりハ一義一字ならんこそ宜しからぬ云々。故にさばかり字多けれども、終ニ万物万事を一字づゝにてハ尽す事能はずして、二字三字連接する名称も多かるをや。

扱又字多き故ニ、目をこれを視れば義理分るれ共、字の多きに比すれば音ハいと少くて、一音に数字言兼る故に、耳に其言を聴てハ義の分らぬ事常ニ多し。又音即言なる故に、言にてハ、ノム、クロフとも、ノママ、クラハンとも、ノメ、クラへとも活用て其義を分つを、漢国にてハたゞ飲食と云より外なくして、活用さるゆへにノム、クロフ、ノママ、クラハム、ノメ、クラへも一ツにして差別なし。其時のさまと上下の事とに随ひて必得分るのみにこそあれ、其一言の上にてハ分り難し。諸の言語ミな然り。此ハ漢国のミならずとあり。

さて上の三説によりて文字多きハ返てあしく、其意通しかたきをしるべし。又論語に此の字なく、易経に無の字一字よりなし。かく近き文字にてなくてハならぬ心地すれど、儒者もしらざるハ文字多き故なり。又彼国の言語ハ皇国のことく正しからずして、鳥の鳴いといとよく似た

り。

其ハ三音考の意を斑ニ摘ていはんニハ、雉ハキン、犬ハワン、鼠ハチウ、猫ハニヤウ、鳥ハカア、蛙ハキヤウ、絲ハヒンボン、竹ハビイブウ、金ハチンヤンチヨンゲワンボン、革ハデンドンカンボン、木ハカツと鳴る如くにて、長く引く音多く、又短きハ急促てゆるやかならず。唐人の言語ハ此音によく似て、この音またチユ、キユ杯々急促たる音多くして、鳥の囀る如くに聞ゆ。故に古くより 皇国ニて唐人を韓さへづりともさへづるや、漢とも云へる宜なる事にて、皇国の言語ハ異国に優りて正しく直なる事を知るへし。

朝鮮

朝鮮ハ前に云如く固有の文字あり。

琉球

又琉球ハ、皇国のことく漢文字成と片仮字、平仮字もありて、大橋流、玉置流などの書法ニて、又謡をうたひ、能囃子も興行なし、和歌も流行なす由ハ、三国通覽に委しく有て、今ハ何事も 皇国流となり、和学も盛行はれて、おびたしく和書を買帰るよし、諸書ニ見えたり。

皇国に漢字の伝わつた経緯  
菟道稚郎子、百濟の  
阿直・王仁に漢字を  
教わる

又皇国ニ漢文字の渡りしハ、今乙卯を距事千五百七十二年前、応神天皇の御代十五年ニ、百濟国より阿直といふもの参り来て、菟道稚郎子に文字を教へ奉る。翌十六年又王仁といふもの参来て論語十卷、千字文一卷を献る。此二人菟道稚郎子ニ漢文字を教へ奉りし也。斯 皇国ニて漢文字を説始にそ有ける。

されと前にも云ごとく彼国の音声ハ鳥のさへづる如く成ゆへ、鼻声を口声に移しチユ、キユ杯の急促声をゆるやかに改め杯して不正の音を除きて、皇国の音に近く叶へて新ニ定められたるものなり。

漢音を学ぶ

又二百二十八年後継体天皇の七年に、五経の博士、揚爾と云ものを貢る。又十年漢の高安茂といふものを貢る。又三十七年後欽明天皇の十四年易博士、曆の博士杯を貢る。又翌十五年五経の博士王柳貴と云ものを貢る。

さて前の菟道稚郎子の習ひ賜ふハ呉音にて、漢音と成たるハ此博士共の時より成らんと、本居翁の三音考ニ委しくミえたれば略す。

『新字』(わが国最初の辞書)

漢和辞書『新撰字鏡』

又漢文字ハ前ニも言如く、三万三千三百二十七字とやらくだしくしき文字成けるに、又天武天皇の十一年、境部連石積等ニ命て新字四十四卷を撰しめ玉ふ。即ち侯、禰などの字是也。夫より後又新撰字鏡を撰ハしめ玉ふ。此ハくだしくしきから文字成とも、皇国のものとうつしミれば、又足はぬ字もあれハなりけり。

かく一物一義にことくく文字を製でハ足はぬ事にて不便利なるを、万国の文字に優りて、上もなき尊き文字と思ふ漢魂の人ハ、いとく拙くなげかはしき事にそありける。されど此人ニ 皇国ハ文字なく、漢文字を用ゆるハ猶なげかわし。その証は古語拾遺の序ニ広成も、上古之世未有文字貴賤老少口々相伝と言れ、又本居翁も玉銚百首ニ「故事を今ニ委曲に伝へ来て文字も皇国の一ツ御宝」など読れたれば、皇国ハ本より文字無き証にて、中古より漢文字を用ゆるハ、猶なげきてもなげき不足国なり杯思ふ漢魂の人もあらん。

上古わが国にも文字あり

此ハ上古吾国ニも文字ありしを珍らしきをめづるハ人心の常成故、漢籍渡りてより、もばら用ゆる世と成しゆへ、いつとなく吾国の文字ハ神社にのみ残りて、世の人しらず成りければ、大同年中の頃ハ広成も文字なき国と思ひてかく言はれたるにて、又本居翁の時も、古学ハ今の

漢文字を学ぶこと、  
教えることの難しさ

儒者等は音読で意を  
解するというが：

漢学を学んだ者に、  
不忠、不孝をなす者  
が多い

異国に心を奪われ、  
皇国を悪く言う

世のことく開けざる時成故、かく思ひ居られたれど、近年諸の古き神社などより、千余年に隠れたる神字の世に顕出たる、斯偏二神の御量ハカラひにて、国学の万世界に開くる御証シムシにて有ける。

さて稚郎子の王仁ワニに漢文字を始めて習れたる時ハ、いと覚えがたかりし事ならんと思ふ。そハ火の字ハ火を教へ、水の字ハ水をおしへ杯すれハ、悟り安き事成と、言語にて歛ツツの字ハ教へ方なきゆへ、笑ふ、わらへハ笑の字となる類にて、又欲杯の字ハ猶教へがたかりけん。此ハいかゞして教へ奉りたるニカ、此類甚多し。

又儒者等ハ、訓ハいはずとも音にて直に読バ、甚意解其するものなり杯言ふめれど、口にハ音にて直読チヨクドクにすとも、心ハ訓にかへり思はされバ、其意解（まま）さるものも也。此ハ何程誇り顔にいふ儒者にて、字音のミにて訓を少しも用ゐずと言ひてハ、片時も用ハ通せぬもの也。又遠き山谷に住人ハ、己が名の字さへ知らぬもの有。されと用ハ闕カす済スムものにて、家をよくしりたりとて、和訓ワクンをいはでハ唾ツツ、聲コエも同じことにて、用ハ通せず。

又漢学をなしたるものハかしの教をよく知り、漢学カウガクをなさゝるものは教を知らぬ故、君に不忠をなし、親に不孝成にあらす。却て漢学をなしたるものハ、君に叛ソムき親に背くもの甚多し。此ハ、吾ハ何事にまれよく知りつれと、君ハもの知らず、臣を臣と思はざる故、かくかく世も乱る、也と思ひて、武士の股イシの村王チウワウを殺せしにハ至らざれ共、君に叛くものいと多し。此ハ唐国の教の本より善からざれハ也。故に何にまれ、異国の事を精密にたゝし知るハよき事成ど、皇国の事ハ何事にまれあし、と思ひて、異国の事ニ心を奪はれて、何事も異国よしと思ふハわろし。

皇国には神字があり、漢文字は不要

異国の言葉は通訳に任せればよい

かくいへば、広信ハ漢文字をしらぬゆへ、聖賢の尊き教も知らず、又皇国上古の事ハ猶さら万世界の事を知るも、此漢文字の御陰成ことニハ、氣も付さるやと思ふらん。此ハ本末を知らぬもの、よく言ふことにて、皇国上古ハ、何事を記すも神字にてもしたるを、かく今の世の漢風となりたるものにて、漢文字ハ知らでもよきもの也。

唐国の事ハ、舌人ありて唐の文字を習ひ、又唐の言語を知て、神字ニ和解すればよきものにて、たとへば、亜米里加或ハ西洋諸州の文字知らても、其国々の訳語人、彼国の字を知り、言語を知りて解すれハ、何事も知る、が如し。故に唐文字をからても、上古のこごとく神字を用て訳語人等に和解なさしめバ、解する事にて、神世文字の有しを応神天皇の御代漢籍渡りて盛ニ御用ひありければ、夫迄伝来し神字ハいつとなく廢れて、終に今の世のごとく成来りニけり。

されと其頃より、漢文字盛りニ行はれつれど、皇国万物万言ニ当足はぬ字もありしゆへ、万葉仮名ニて書れたり。此ハ字の足さるのミニも非ず。漢文字ニてハ、記し難き事あれバ成けり。又足ざる字、島、衛、柚、櫛等の如き類ニて、此ハ新字四十四卷、或ハ新撰字鏡の如く、新に字を製らしめ玉ひて、何事も唐風ニなさんとなし玉ひけれど、皇国ハ言靈の幸はふ国也けれハ、思ふ事つぶさに書記さんニハ、漢文字のミにてハ思ふことも書尽しかたくて意も違ふ故、片仮字を製りて千万の事を正しく記されたり。

片仮名は漢字の一部を取ったもの

何の世いかなる人の製りたるにや、古書ニなれば知りがたし。されど吉備大臣入唐して王化玄より伝へたり共、吉備大臣自製られしとも、又真言僧悉曇章にはせて製りたり共いへ共、何人にまれ、奈良都の末よりの書ニ見えつれ、其頃の製ならん。此ハ唐文字の片々をとりて製

### 『新撰字鏡』

片仮名をつくり正しく記す

平仮名は片仮名をく  
ずしたもの

片仮名と平仮名は便  
利な文字

漢文字を用いる者は  
自らを自慢し人を見  
下す

りたるもの、吾国の神字によくかなひていとよく、又平仮字は此片仮字をくづしたるものにて、此二ツ八千万の事を書記に足はぬ事なく、思ふ心を筆に言せて、千里と遠き女童までも書通ひて、取も直さず神代の文字にかなひて、便利よき文字にぞありける。

さるをもの知らぬものは、人に贈る書翰或ハもの、印にも、普通にハ読知らぬ字をかなぐり出して書、吾ハかく人の知らぬ字をも知り得たりと人に思はせ、又詩文章杯を作りて、吾ハ賢きものしりと口にハ言はねど、眉をあげ鼻のあたりをうごめかしつ、襟かき合せ杯して、自ら賢しと思ひ、人をハ物知らぬ者也と慢り見下すハ、何なる心なるにか。憎からざりし童もや、かの学ひニそみぬれば、いつとなく日本魂を失ひて、異国の魂となりたる故ならん。わきて詩文ハ益なくして害あり。何にといふニ、皇国に用なき平仄、韻字をつらねて風景ヲ述るなり。

かくて童も少し詩作の出来初ぬれば、やがて思上りて、丈夫にいろはハ似げなし、漢文字にてもものせりと誇居也。是唯己が高慢を人に知せ、ほめられんとの下心にて、人に誉られ翫物となりぬれば、其学成就したりと喜ふもの也。是己か為に学をなし、国家の為に学をなさずして、人に誉られ翫物に成を欲ふ汚穢心成ハ、詩文を作らんよりハ、浄瑠理或ハ歌三味線なり共習ひ、人に誉られ翫物と成方や勝りつらんと思ハるゝ。

さてかく無益成る学を成して己を高ぶり、人を物知らぬものと軽り見下すハ、此学ひの僻成事ハ常いふごとくにて、臣としてハ吾ハ唐国聖賢の道ハ本より詩文に至るまで、かく学ひ得たるものを君の用ひ賜はぬハ、上たる人の人知らぬ故也。又かくもの知らぬ人を用る玉ふハ、

人を見下すのは漢学  
を学ぶ者の癖

皇国の天皇は天地と共に極らない

君不明成る故也抔と、己かねぢけたるを知らず。孔子も時に合はず抔と、君をも人をもそしる成るハ、皆此字ひにたへ砕てすがくしき大和魂を失ふ故なりかし。

異国ハ、何成るもの、骨とも知れぬ賤しむ奴も、時にあへば、忽ち二王となりぬる例あれど、皇国の天皇ハ今も万国を御照しします天照大御神の御後ニて、天地と共に窮なけんキハミと詔賜ノリへの御神勅のごとく、今に 皇統連綿たる大君ニなもおはしまして、此天地と共に窮キハミなし。仮令君不明にましますとも、臣として君として君に叛奉らぬハ神代の御教也。

マカオでの仮名文字のこと（漂民弥市）

さて片仮字ハ日本固有の字ニハあらねとも、よく神字の意ニ叶ひて、いと便よき文字にて、皇国ハさら也。唐国にても彼の習は更ナラハにかくや此歌仮字まじり、今ハ唐にも書や此仮字カナ唐人の読たるごとく、今ハ彼国にても便利よきとて書と見えて、弥市漂流記に、唐国の澳門アウモンハ、日本の文字平仮字、片仮字等も少しは通用成すといへり。

マカオでの仮名文字のこと（漂民亥之助）

又亥之助漂流記に、澳門に南亜米里加より此地へ来り住する書林の世話に成たり。此主人に博識ハクシキにて、吾国の平仮字、片仮字もよく読書をなし、片仮字ハ重宝成、よき成とて、甚嘆美せりといへり。

香港での仮名文字のこと（漂民寿三郎）

又肥後の寿三郎、唐国の香港ホンコンより吾国へ送し書翰ハ、「カウビンニマカセ云々、ヲシ、ヨサマニモ、ヨロシクランツタヘ下サレソウロウ云々、コノカタカナガテジルシなり抔書たる書翰ニて、寿三郎もかく師匠様へも宜しくとあれハ、字も習ひ知たらんニ、片仮字ニて書送り、又弥市、亥之助等の記ニよりて考へ見れハ、今ハ異国にても、吾国ニて製ツクりたる仮字文字を重宝也とて用ゆとミへたり。

重宝な仮名文字を女文字と言ふとは：

編者広信が各国の文字の大略を論じるわけ

かく異国迄仮名文字を用ゆる世になりたるを女文字成とし、漢文字ハ男文字とて喜び書ハ、本末知らぬ人のなす業成ハ、汚キタテき心を洗キヨひ浄め、すがくしき心ニ立もどり、皇国文字ハ尊千萬の事を思ま、に書尽、これ已上もなき重宝の文字なる事をさとりてよ。

さて広信かく千万国の文字の大略ヲ論するハ、心ありて記たり。其ハ何といふに、昔ハ兎もあれ角もあれ、近年ハたえまなく年々亜米里加、魯西亜、仏蘭西、英吉利須等の国々より吾海岸へ来りて、書翰ヲ己か国の文字にて、己か国語コノゴニものして奉る。然るを吾国よりハ漢文ニて返し賜ふハ何事なるや。唐国へ遣し賜ふ書翰成ハ猶さも有べき事也。いと口惜敷ワざならずや。吾国は天下の一帝国ニて何事も異国ニ勝りて、固有の文字有ながら是を用ひ賜ハて、唐国の文字を仮かり、書法迄唐国やうニ唐文字ニてものして遣し玉ふハ、皇国ハ文字も書法も知らず、何事も唐国ニ習ひて諸道ハ開けたる国成と、知らぬ異国まで知らせ玉ふハ、皇国の恥辱を万国へ流し玉ふしわざにて、実ニ悔ミてもくやミ足らず。歎なげきても足らず、いとく口惜事成ける。神字にて宣命書センメイに記し遣したき。

されと神書ハ吾国の人だにしらぬ世と成けれバ、此を本書となし玉ひて、別に添書を西洋字ニて其国々の言語に、崎陽ナカサキニ在館せる蘭人に記させ遣度事成。此ハ唐国清の元祖韃靼タタリより出て一統セし時、蒙古モウゴ、満州マンジウハ言語も文字も異にして通セさるゆへ、其国々の文字ニて同し事を異に記して遣せし事もあれハ也。

さて広信、横文字の詳註にかく長々と論しを見、人笑ふ成らんとしか思ひつれど、今いつれの章を抜にも悪びず草稿を吾教子なる信胤に記さしむ。

市中に五、六の教会があり、各屋上に十字の標あり

〔追考〕

十字形は耶蘇教の標

又市中に寺數五、六寺あり。堂の建方ハ市街の家造の如く屋根に棟なき寺もあり、又棟ありて上に少き門台のごときもの有て、其中二風鈴の如き鐘をさげたるあれど、いづれも皆屋上に十字の標あり。第三卷二図有、見合すべし。

追考

棟の有無ハ教法ニよりて異成るさま成と、十字形の標ハ耶蘇教の寺ニて、耶蘇ハ今乙卯を距る事一千九百二十四年前、崇神天皇の御代二十九年に如徳国の「サントスマリヤ」と云女子、十六歳の年、神人天降て夢見らく、汝ニ聖子をさぶくと奇異の夢を見て、遂に父無くして男子を生り。

其子奇才有て、諸民をなつていひけらく、吾ハ天の主也。天上より人界の有様を見るニ、人皆天堂、地獄有事をしらず。善業をなすものハ天堂に至りて歡樂を極む。又悪業を成ものハ地獄に随て万苦を受く。此事を知らざる故、吾人身を仮りて凡人にしらしむ杯と虚誕の偽説をいひしが、間もなく事有て磔に成しとかや。又耶蘇死に臨みて云けらく、吾かく苦を受けるハ凡人ニ教法をしらしめん為也と。猶々虚説を云たりとかや。此耶蘇を教祖と成して其門人諸所へ分りて法を弘めたり。

〔辺要分界図考〕

\*底本に数行分の空きあり。絵図があつたか

さて十字形と云ハ、此磔の柱の形を取たるものにて、其ハ辺要分界図考に図あり。

又人に対して拝するニ、大指、人指、中指の三つを一ツにあつめ、先額に當、次に胸に當、

次ニ左りの肩、次ニ右の肩ニ当る。此十字の形なり。

又鉄ニて造りたる十字形ヲ魯西亜ニてハ頸クビに掛る也。其外坤輿図識ニ記ス其旗印等ハ皆十字形より出たる標にて、此教法にてハ穢しき

\*底本に数行分の空  
きあり。絵図が  
あつたか

磔柱の形をかく尊信す。都て取に足らず。

寺觀のさまは、四方の窓は民家と同じ。内ハ敷瓦シキもあり、又敷石のものも有て、金仏の本尊有寺もあり。本尊あるハ向ふに棚カケありて、立像に金仏也。

〈追考〉

追考

教会の様子(万次郎)  
万次郎云。切支丹宗門ハ「ヌーベツポー」の辺ニはなし。其宗の寺ハ仏像あるさまなり。さして制禁ニてハなし、されども此辺ハ人心実もなる故ニ、さるあやしき事ニハ惑はずといへり。又亥之助云。寺の如きものを「イキリス」と云、屋根の棟に十字形の標シレンあり。仏ハ三像あり。本尊を「リヨラス」と云。脇立を「サンタリロス」、又一方を「サンタニヤ」と云。「リヨラス」ハ日輪のよし。此外ニ「テンノツカサ」といふ仏ありと云。此ハ皇国の言語と通ひて聞ゆれと、

「テンノツカサ」といふハ、教祖天主の事ならんかし。

其前に五、六寸許高き所ありて、寺主夫に上り、其まへニ皇国の寺の飯台の如きものニて後にもたれ木有ものをすへたり。寺中両脇に幾通イヌトホにもならへあり、参詣の者皆夫に腰をかく。皆懐フトコロより

皇国の童奴アツチワカヒ謡本の大さ成横文字の本、表紙ハ十字形の標シレンあり。其本を出し、寺主も立なから本を

聖書を読む

出し、参詣のものとかはるくに読なり。又花、香炉、其外飾カサリものハなし。又図の如く風鈴フウリンの如き鐘有。

〈追考〉

追考

教会は塔のような造り  
各自聖書を持参する  
牧師は聖書に基づき  
説教をする

万次郎云。寺の造方、塔の如くにて、高大至極のものなり。惣て三百尺、二百尺の大なるあり。夫に時計有て、時を知らしむ。寺中仏像なし。毎月七日に祭あり。此世を開たる仏を祭るといふ。祭の名を「シヤバス」といふ。又船中ニても此祭をする也。寺内に幾つともなく腰かけ有て、此祭にハ檀家残らず参集り、各書物を持参す。

『環海異聞』

寺主ハ高坐ニ上りて書物を持、衆人に向ひて、いづこのそといふ処を開き見よといへハ、各々其処を開く。寺主其処を讀上て、跡にて其訳ワケを説てきかす也。

船中ニても礼拝が行われる

環海異聞に曰、鐘楼の上ニて鐘を振鳴す。鐘楼の天井の真中に大鐘あり、其廻りに釣てある小鐘ハ、五ツ或ハ七ツ又九ツ釣たるも有。数ハ九ツ限也と云へり。

又船中ニてハ此日黒きものを着し、髪を解き身を浄めキヨ、和尚体のもの有て船中ニ集り、此者寺主かハりに成て、寺の誦經の如く經文を互に唱る也。此和尚体の人ハ是のミ勤にて他の事ハセざる也。

〈追考〉

追考

喪の式には黒色を用モ用『紅毛雑話』『新国図志通解』

紅毛雑話に、喪の式にハ黒色を用ゆ。喪ニある人の遣ふ黒き扇子を「ラアウワーエル」といふ。書翰の封も黒き「ヲツカ」といふものにて封す。又新国図志にも、葬式、墓参ニハ白衣を用ゐず、黒衣を用ゆ、とあり。

日曜礼拝のこと

又七日毎ニ参詣日有。一日を「サンデイ」といふ、二日目を「モーデイ」、三日目を「チャウブ

デイ」、四日目を「ワンツテイ」、五日目を「フライデイ」、六日目を「セキテ」、七日目を「サツタデ」と云て、又終の日より本へ戻りて、八日目を初の日として、これを「サンデイ」といふ也。此日市中一統參詣なして、経文を唱ふ。寺ハ此日のミ明て居、恒にハ和尚も宅へ帰りて、寺ハしめ切也。

〈追考〉

追考

日曜礼拝（万次郎）

万次郎いふ。年中七日目々々ニハ、上下共家業じめにて、此日ハ休むなり。是をカートと唱へ、娑婆<sup>シヤバ</sup>未来を開き賜ふ人六日行を成して、七日目に休ミ、縁ニよりて此日ハ寺へ参り講釈を聞く。或ハ宅ニて書見を成すものもあり。又山野にゆきて殺生を成すものも有といへり。

日曜礼拝（伝蔵）

又伝蔵いふ。「ウワフ」国にも「シヨンレイ」と唱へ、七日目々々にハ上下家業じめにて講釈を寺にて聞といへり。

日曜礼拝（弥市）

又弥市ハ是をドシンコといへり。四人とも唱へ異成るハ国所<sup>コト</sup>別なるゆへ也。されど皆天守を祭るとミへたり。此「サンデイ」

の事ハ諸条ニ注<sup>チ</sup>するゆへ、こゝにハ大略を記す。

船中の葬式

船中ニて死したる者三人有。其葬式を見るニ、棺<sup>クワン</sup>ハ一方細くして裸<sup>ハダカ</sup>にて棺へ納め、和尚体のもの共、経文を唱へ抔して橋船にのせ陸へ送る。其時ハ船に立たる船印を一丈許も下る也。

〈追考〉

追考

葬式（環海異聞）

環海異聞ニ凡死亡の事あれハ、屍<sup>カスガ</sup>を臥<sup>フシ</sup>さしめるやうニ作りたる棺に斂<sup>アツ</sup>むる也。亡者ハ垢<sup>アガ</sup>付ぬ衣服を着セ、頭の方を高くして臥<sup>フシ</sup>さしめ、透間<sup>スキマ</sup>々々につめものして蓋<sup>フタ</sup>をなし、釘<sup>クギ</sup>を打けにして

しめづして寺へ送る。其刻限ハ朝晩の内三度のつとめある時をさして、家内並に親族、懇意コンイのもの等付随行也。

堂内へ棺を持たバ、和尚唱へ言有。引導の如きものとミゆ。右事すミて付添行し近親より始めて、蓋を明置たる棺の前より、亡者の口へ己か口をつくる也。且ハ時刻に寺へ参り合せたる他人の男女も、其序ツチに列り、各火を点テしたる蠟燭を手ニ持其場に立並ひ、親類中口を合せ畢スれハ、此輩も銘々亡者の口と口を合す。何れも合せ終、棺釘じめニして、夫より墓所へ送葬する也とあり。

葬式（万次郎）  
又万次郎いふ。人死すれハ臥棺に納め、僧来りて存生中其身の行ひ等を言ひ、唱へごと成して、夫より墓所へ車ニのせ馬ニひかせ、土葬にすと云り。

又弥市が世話に成居たる「カエタノノと云もの、妻「トリテヤ」といふもの、死したる一条ニ珍き話あれと、長談成る故略す。

又或日船中にて 皇国の法事などの事をかたりければ、異人云、死して後金銀を遣ひ、又親類等を呼て死人の為ニ経を誦とも、何の益にも成る事ニあらず。かくするよりは、生て居る内にその金銀を人に施し、胸を□へて心をよく持つハ、魂天へ登りて安楽ニくらすと云り。

〈追考〉

追考

ニハ（ま）天主教の大主ならん。又死後年忌、墓ホサン参、精進、法事等成さずと見えて、伝蔵も、「ウワフ」国ニて弟重助病死成しつれど、国風に依らず、伝蔵ハ精進、墓参、法事等もなしたりと云へり。又環海異聞に月忌、年忌の吊よぶ杯は見当らずと云り。

牧師、頭は蓬髮、衣

服は世間に同じ

〈追考〉

又僧の頭ハ蓬髮、衣類等も俗と同じ。妻を持たバ火食ヲせず。又火食すれハ妻を持ぬ也。

追考

教会と牧師（万次郎）

万次郎いふ。寺を「チヨイ」といふ。僧といふべきものハ俗体にて、衣類も同じ事ニて、肉食を成す。されど妻は持す。精進の時は四足のを食ハずして、魚、鳥を食すと云り。

又環海異聞に曰、精進ケツジン潔斎といふハ、四足の肉を禁食する事也。魚、鳥ハ汚ケガれの物とせず。諸、魚類ハ煮ても蒸焼にしても食ふ。祭日杯に魚を小麦の粉ニくるミ蒸焼ニして食ふ。其衣にかけたる粉、魚の油にて共ニ甘美なりと有。其他諸書皆同説なり。

世界の宗教の根本は  
天方教、耶蘇教、婆  
羅門教

さて万世界教法の根元ハ天方教、耶蘇教、婆羅門教の三教也と思はる。「フロテスタン」教、「カトレイキ」教、「ローマ」教、「マゴメ」教、「ヤコビチャ」教、「アヒユマ」教、「ヨーデン」教、「ファイフ」教杯あれども、是皆天方教、耶蘇教より出たる教法成へし。

アメリカ言語

亜米里加言語

天文

天文

日輪ヒサシ 月輪モラン 星シタアシ 風ウエンロ 雨シユン 雪スノヲ 日出ヒサシヲツパヤ

日没ヒサシヲラン 北極北極星カノウスシタアン 寒コラル 暖ハアツ 烟スモラク 東イ、ス 西ワイス

北ノウス 南サアス

地理

地理

水ワアラ 山マムツ 石ストン 潮水サアルヲワラ 鳥アイレン 磯ロラス 国ステイチ 江戸  
ゼー 京シヤコ 長崎ナガシヤアキ 日本ジャツパン 日本人シヤパンニーシ 亜細亜エージ 欧

時令

羅巴「エウロツフ 亜弗和アフリカ 北亜米里ノウスメリカ 南亜米里加サアスメリカ 伊吉利須  
イギリ 和蘭ホウラング 新和蘭ニーホーランタ 葡萄牙ボリゲン「ボル子ヲボウニウ(ラカ) 蘇門答  
刺サギレン 都兎格トリコ 魯西亞オラシア 瑞丁スエデンシユエシヤ 伯西兎バラ、イス 中華チャイニ  
時令

年イエル 一年グワンイエル 二か三年チヨウイエル 一月グワンモラン 一時グワンアヲリ 夜ナイ  
朝モヲ子ン 晩イプ子 昼テエ 今日デシデエ 昨日子キシデエ 明日ツマアラデエ 正月セニ  
ユウライ 二月フクフライ 三月マアテ 四月エブウラ 五月メエ 六月ジユウシ 七月シユライ  
八月オ、グステ 九月セキテン 十月オクトウベエ 十一月ノウベンベエ 十二月ソイセンベエ  
三十日トウテデ 一日グワンデエ 二日チヨウデエ 三日ツルイデエ 四日フオーデエ 五日フ  
ワイデエ 六日セキデエ 七日サヒデエ 八日アイデエ 九日ナイテエ 十日テンテエ 十一日レ  
エブデエ 十二日クイルデエ 十三日トヲテンデエ 十四日フォテンテエ 十五日ヘフテンデエ  
十六日セキテンデエ 十七日サビテンデエ (十八日脱、の頭注あり) 十九日ナイテンデエ 廿日テンテデ  
エ 廿一日テンテグワンデエ 廿二日テンテチヨウデエ 廿三日テンテツルイデエ 廿四日テンテ  
フォテエ 廿五日テンテフワイデエ 廿六日テンテセキデエ 廿七日テンテサビテエ 廿八日テン  
テアイデエ 廿九日テンテフワイデエ

人倫

人倫

男マエ 女モメ 父「子供の内ニ云は「バ、ア」、大人ニ成りて云は「フワ、ダラ」 母「子供の  
云ハ「マ、ア、大人ニ成て云は「スア、ダラ」 祖父オールマヘ 祖母オールモメ 兄弟ブラダイ

身体

女兄弟セツロシ 妻ワイフ 夫マスタ 大統領カブ子 医者ドラクト 男子供ホウヤ 女子供ケ  
口 悪人ノグルマイ 善人グルマイ 師匠シコロマアシ 手習子シコロホウヤ 船方セエロマイ  
木匠コワカ 兄ヂヨン 兄弟分チヨメ 盗人ステイリ

身体

頭窓<sup>アタマ</sup>ヘヤ 髪ヘエル 目アイ 眉アイプラス 鼻ナアス 口<sup>クチ</sup>マツス 耳イヤイ 手ハンテ 陰茎ヘ  
イカ 陰門カン 骨ボン

疾病

疾病

風病コラルセ 何にても疾をセキ

宮室

宮室

家ハウス 寺チヨイチ

服飾

服飾

着物シヨラツ 幌巾ハシケチ 襦絆シヨイチ 中襦絆シヨラツ 上ニ着る物をコオツ 羅紗のはん  
てんヂヤヤケレツ 下股引ツラアシシ 上股引ドロオツ 頭巾キヤアブ 沓シユウス 長沓プウツ

飲食

飲食

塩サアル 麦クラハ 蒸餅<sup>パン</sup>ブライ 砂糖シヨカ 酢ヘンガラ 米ライシ 豆ベニ 酒ワエン 厚酒  
ブラシテン 卵<sup>タマゴ</sup>アヒギス 牛油クルイス

器財

器財

本ボク 商船マチンシワパイ 軍船マノワ 蒸気船シチンボウ「スツテンボー」 食物を積来る船ス

金

金

金ゴラロ 銀シヨウロ 通用金の総名モ子

玉石

玉石

硫黄マアチ

気形

気形

鳥の総名ゴイス 鶏チキン 鷺<sup>フシ</sup>イコ 生魚フエーシ 蟹<sup>ワシ</sup>フラピン 蛇ス子イキ 牛カヲ 馬ホヲス  
豕ベキ 鹿ヒウス 熊パニ 犬トラコ 猫キヤアツ 鼠ブライダ 猿ジヤコ「モンケ 虎タイゲ  
ル 馬に似たるものアイス 猿カヨリ

草木

草木

卷<sup>マキケハコ</sup>烟草シカ 板烟草タバコ 烟草シガスマク 茶デエ 大根フラジ、蕪<sup>ホウレンソウ</sup>タナビシ 菜キヤベツ

数量

芋ベテト 花フライタ 竹マンブ 木ステキ

数量

一グワン 二チヨウ 三ツルイ 四フオ 五フワイ 六セキ 七サビ 八アイ 九ナイ 十テン  
十一レビ 十二チエル 十三トヲテン 十四アラテン 十五ヘフテン 十六セキテン 十七セビテ  
ン 十八アイテン 十九イテン 廿テンテ 廿一テンテグワン 廿二テンテチャウ 二十三テンテ  
ツルイ 廿四テンテフオ 廿五テンテフワイ 廿六テンテセキ 廿七テンテセビ 廿八テンテアイ  
廿九テンテナイ 三十トヲテ 四十フヲテ 五十ヘフテ 六十セキテ 七十セビテ 八十アイテ  
九十メイテ 百ハンケ 千タヲチズ 万テンタヲヂス

言語

言語

よい日和で御ざりますクルデイ「グルフハヤデイ 今年コトシテシイエル 来年子キシイエル ひく事を  
ホウル 切事ガツレ 強ゴ一ソ 返詞ヤスサリ「ヤイス 赤ライロ 黒ブラアケ 白フワイラ 無  
ナウ 有ヤイス 長ラアジ 短シモール 大バーキ「ラアジ 小シモラル 上ラワパイ 下ラヲシ  
吾事をミ 見事セ一 早クキケ 臭シメル 死ダエ 好グウル 誠マコトによいワリグウル 悪ノウク  
ウル 美麗ハ皇国の俗語ニ同しキレイナ 汚ドテ 泣クライ 低メヂヤ々々 知ヤイス 不知ノヲ  
寝シリツビ 汝ユウ 行コウ 戻バケケ 向ふより人の来たるをカミシヤウル 来る人の帰るを  
コウバイケ 来いカメ 遣ヤルことゲビツ 色々ワリラアジ 踊シン 歌をランス 作ケチン 浴ワイ  
シ 洗濯ワイシ 材木薪杯ワイシといふ。煮フハヤ 焼同上 沈ララン 教シコロマアシ 葉メリ  
レン 朝飯バクワシ 昼食デナラ 晩食ソツパラ 忝タンキソン 有難ふ御ざりますミプランテン

\*「一七日」とは一週間のことか

〈追考〉

万次郎漂流記などを参考にアメリカ語を修正、追加

天文

タンキソン カケシケンフ 御ざりますも同し 私に下されケビツミ 下されぬノウノビ 余処へ行ゴンシ  
ヨウル 朝飯喰たかノウバクワシ 湯を飲ワヘンシンケ 水飲ツアラシンケ 喰イーテ 見ロクヤ  
セエ 咄するシソピキ 戸を明るオブ子トウ 戸を聞シユツトッ 聞か 腰懸るチエエリセダヲ 居れス  
タツベ 往けゴウハヤ 何ほしやアマ子「アマチ」もちつとモウ 取ケヂン 小便するビトス  
砕るフロラコ 破る、ペエル 皆エフレ 湯ハツワアラ 一七日グワンウエイキ 半分呉アヤフケ  
ビ 朝の挨拶「グルモ一子、よい朝で御坐ります」 正午ヒルの挨拶グルフワヤデ 晩の挨拶「グリフ  
子、よい晩で御坐ります」 尋る「ホシイタス」ワツタイス 船の上階アミダイケ 次の階ララン

追考

万次郎漂流記並ニ諸書をシウセイ輯正してこゝに記す。

天文

天へブン 日「シヤアン、「シヤン」 月ムウン 星シタア 東イノシワ 西ウエシツ 南シ  
ヤウス 北ノラス 暑ハカワイ 寒コラル 雲クラウ 雨「ルイケン、ルイン」 風ウイン  
雷サンダ 火フパヤ

地理

地理

地オエソ 山ヲアンダ 海「シイ、「シイー」 川ンレハ 土クレタ 道シワルイ 遠道ムン  
チャカミノ 近道コマカミノ 小川ホン 日本セフパン 唐チャイ 天竺インラン 亜墨利加  
メリケ

時令

時令

人倫

年イヤ 時タイス 春「シブレん、シプらん」 夏「シヤス、シヤマ」 秋「オトシ、オトハ」 冬ウインタ 昼テーイ 夜ナイ 夕方ホイナシノ、テ 暮イプ子ン 正月チエレ 二月サブルエレ 三月マアテ 四月エツブレル 五月メエイ 六月チワン 七月チエライ 八月オホカシワ 九月シツテンバ 十月ラツトラバ 十一月ノラベンバ 十二月リイセンバ

人倫

人イーン 男メーン 女ウラメン 父フバアサ 母アーサ 子チルレン 主人マアシタ 家来ウライエタ 老ヲウル 幼ヤン 兄弟フラサ 姉妹セシタ 夫婦メエンツイフ 夫ハシバシ 妻ウワイス 盗スイス 乞食ヘイガ 師匠マアンタ 王フラシタン 親ヘーラン 小僕チヤテウ

身体

身体

頭ヘノエツ 耳イヤ 目アイ 鼻ノウス 口コウス 手ハンダ 足レイキ 指センガ 瓜子イ  
ル 舌タン 齒ピイス 尻ハイン 男根フレカ 女陰カンタ 腹ベレ 胸シタガ 大便シエツ  
小便ペイス 唾シツヘイ 股バタ 肘<sup>ヒデ</sup>コト 血ブラン

疾病

疾病<sup>疾か</sup>

病ヒーイバ 産ハベンチャエル 子出来シタル「ハイチャヤエル 痛ホエワ 癢イツチ

宮室

宮室

家ハウン

服飾

服飾

飲食

絹物フハイ 赤レエー 青ブルー 黄ヤアロ 白フハイ

飲食

酒ウナム 黒砂糖ハケオヤ 茶テエ

器財

器財

鉄炮ガン 弓シツピヤ 矢アロ 刀シウツダ 庖丁ナイス 船ヘーメル 車ファイロ 檣マアン

楫テラ 櫂ヲワ 時計「大クラカ、小ワーチ」 丸ラウン

金銀

金銀

金チエム 錢ハスダラ

玉石

玉石

玉ボール 石シトオン

気形

気形

鶏サウル 馬ホラン 犬トヲギヨ 猫キヤソタ 鼠トウス まつ田鯨<sup>甲</sup>シツパアン 坐頭鯨シヤ

ラスバタアム 背美鯨ライツホエル

草木

草木

瓜「ニチカク、シグライチ」 麦セハタ 木ウラリ

数量

数量

尺スヲツト 寸インチ 歩テンサ

言語

言語

思センカ 聞ヘヤ 見シイ 言シノセイ 動シマイ 喜フレヤマアンチャ 怒アキレブラ「ヲ  
ルトモ 哀ソン 楽フレイ 笑ラアイ 泣クライ 立シタユンタ 坐シセー 走ラン 智ウワ  
イジ 愚フウル 恐フレイ 問アーシカ 否ノウ 甘シーウイ 苦シソチ 事ツマテアル 酸  
ベンガ 強レワロシ 弱ノーシツレンキス 臭シキンキ 新ヌー 古オー 軽ライト 重  
ヘーベ 右ライツ 左レエスツ 前ヒソフ 後ハイカ 上ハイ 下ロウ 打シツライケ 突ブ  
ウン 切ケエル 喰イツ 呑ツルインキ 忘ナガタ 学ロエン 覚リメンバ 寝シリツビ「ト  
ロシ 起ケツレタ「子バコクシ 捨ロラン 拾サウント 大ラア子 小シモラル 善タホイノ  
有ハア 無ナウ 借ハエロ 返辞シヨイ